

STZ-DR30MBJP (CAN非対応モデル)

STZ-DR30MCJP (CAN対応モデル)

モビリティカメラ

取扱説明書 ～詳細編～

取り付け、配線、ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明のとおり正しく取り付け、配線をしてお使いください。
特に「安全上のご注意」(→P.3～P.7)は、必ずお読みいただき、正しく取り付け、配線をして安全にお使いください。

本機はDC12V/24V車専用です。
本機は日本国内専用モデルのため、外国で使用することはできません。



本セットには外付カメラは同梱されていません、必要に応じて専用外付カメラSTZ-DR30CUをご購入ください。

本機の最新の取扱説明書については、ご購入のサービス会社にお問い合わせください。

万一の事故など、もしものときは!!

必要な録画/記録ファイルが上書きされないようにエンジンを停止して、microSDカードを取り出してください。(→P.14)

microSDカードを本機に挿入する前に「本機で推奨するmicroSDカードについて」をお読みください。(→P.9)

目次



目次.....	2	ステータスLED表示.....	26
安全上のご注意(必ずお守りください).....	3	スマートフォンアプリを使う.....	28
使用上のご注意.....	8	スマートフォンアプリをインストールする.....	28
取り付けについて.....	8	スマートフォンと本機を無線LAN接続する..	28
ご使用について.....	8	外付カメラ視野角の調整.....	29
著作権について.....	8	モビリティカメラの機能.....	30
本機のお手入れ.....	8	■ 機能設定について.....	30
本機で推奨するmicroSDカードについて.....	9	■ 録画機能について.....	30
microSDカード使用上のご注意.....	9	《 常時録画 》.....	30
ファームウェアの自動更新について.....	10	《 イベント録画 》.....	30
内蔵電池について.....	10	《 手動録画 》.....	31
無線についてのお願い.....	11	■ 録音機能について.....	31
本機の比吸収率(SAR)について.....	11	■ ホットスタートについて.....	31
同梱品.....	12	■ ファクトリーリセットについて.....	31
各部の名称と接続.....	13	ファームウェアのアップデート.....	32
取り付け方法.....	14	■ 手動更新.....	32
microSDカードの挿入と取り外し.....	14	■ 自動更新.....	32
nanoSIMカードの挿入と取り外し.....	15	ビューアーソフト「STZ VIEWER for	
取り付け手順.....	16	FLEET」を使う....	33
1. レイアウトを決める.....	16	故障かな?と思ったら.....	40
2. 本体ユニットの取り付け.....	18	付録.....	42
3. DC/DCコンバータの取り付け.....	19	測位衛星(GPS、GLONASS(グロナス)、	
4. 外付カメラの取り付け.....	20	みちびき)の受信について...	42
5. コントロールユニットの取り付け.....	21	LTE通信について.....	42
6. GPSアンテナの取り付け.....	21	Bluetoothについて.....	42
7. 電源ケーブルの接続.....	22	商標、ソフトウェアに関する重要なお知らせ..	42
STZ-DR30MBJPの接続.....	22	フォルダ / ファイル構成.....	43
STZ-DR30MCJPの接続.....	23	主な仕様.....	44
8. 中継コネクタの接続.....	24	ソフトウェアに関する重要なお知らせ.....	46
9. ケーブルを車両に固定.....	25	アフターサービス.....	47
10. 動作確認.....	25	商品に関するお問い合わせ.....	47

- 本書の画面や操作例は操作説明用に作成したものです。本機は自動でシステムアップデートを行なうため、実際の画面と異なる画面や、実際には行えない例が記載されている場合があります。
- 最新のファームウェアアップデート情報などは、ご購入のサービス会社にご確認ください。




安全上のご注意(必ずお守りください)

お客さまや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 表示を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区別して、説明しています。









 警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■ お守りいただく内容の種類を絵記号で区別して、説明しています。








	注意(警告を含む)が必要なことを示す記号です。
	してはいけない行為(禁止行為)を示す記号です。
	必ずしてほしい行為(強制・指示行為)を示す記号です。

警告

取り付けや配線について

	視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない 交通事故やけがの原因となります。
	本機はDC12V/24V\ominusアース車で使用する DC12V/24V \ominus アース車以外で使用すると、火災や故障の原因となります。
	エンジン、マフラー周辺など、高温になる場所には取り付けない 火災や故障の原因となります。
	本機を両面テープで貼り付けるとき、表面温度が70℃以上になる場所に貼り付けない 両面テープの粘着力が劣化し、本機が落下し交通事故やけがの原因となります。
	本機を車両の可動部と干渉したり圧縮される場所に取り付けない 本機や車両の破損、運転の妨げなど、交通事故やけがの原因となります
	本機(本体ユニット、DC/DCコンバータ)を車両の天井面に両面テープで貼り付けない 両面テープが剥がれると、本機が落下し交通事故やけがの原因となります。
	取り付けやアース配線に車両の保安部品(ハンドル、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットを絶対に使用しない 交通事故やけがの原因となります。
	作業前に、車体のパイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認する 車体に穴を開けて取り付けの場合はパイプ類・タンク・電気配線などに干渉・接触しないよう注意して、加工部のサビ止め・浸水防止処理をしてください。火災や感電の原因となります。

安全上のご注意(必ずお守りください)

	接続端子が曲がるなど変形した場合は、直ちに使用をやめてください。また変形を元に戻しての使用もやめてください 接続端子のショートにより、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
	取り付け・配線は、安全のため専門技術者に依頼する 取り付け・配線、取り外し、周辺機器の追加は専門技術が必要です。誤った取り付けや配線をするすると車両に重大な支障をきたし交通事故の原因となります。
	取扱説明書～詳細編～に従って取り付け・配線をする 火災や故障の原因となります。作業は手順どおりに正しく行ってください。
	ケーブル類は、運転を妨げないように引き回し固定する ハンドルやブレーキレバー、シフトペダル、ブレーキペダルなど運転操作部に巻き付くと、交通事故の原因となります。
	車体やねじ部分、可動部にケーブルを挟み込まないように配線する 断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。
	被覆のないケーブル部分はテープなどで絶縁する 被覆がない部分が金属部に接触するとショートによる火災や感電、故障の原因となります。
	取り付け・配線後は、車両の電装品が正常に動作することを確認する 車両の電装品(ブレーキ、ライト、ホーン、ウインカー、ハザードなど)が正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。
	ねじなど小物部品やmicroSDカード、はがした剥離紙は乳幼児の手の届かないところに置く 誤って飲み込む恐れがあります。万一、お子さまが飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
	ケーブルの中継コネクタは確実に差し込む 確実に差し込まない場合、接触不良により火災、感電の原因となります。
	ケーブルを抜くときは、中継コネクタを持って抜く ケーブル部分を持って抜くと、ケーブルが破損し火災、感電の原因となります。
	本機を長時間使用しないときは、電源ケーブルとDC/DCコンバータ間の中継コネクタを抜く バッテリー上がり原因となります。外した中継コネクタはビニールテープなどで水や異物が入らないように保護してください。
	必ず同梱品や指定の部品を使用する 機器が損傷したり確実に固定できず、外れて事故や故障、火災の原因となります。
	電源ケーブルは定期的に清掃する 電源ケーブルの端子にほこりが付いていると火災の原因となります。
	雷が鳴り出したら、ケーブルや本機に触れない 感電などの原因となります。
 ぬれ手禁止	ぬれた手でケーブルを抜き差ししない 感電の原因となります。

安全上のご注意(必ずお守りください)

使用方法について



分解禁止

分解・修理および改造はしない

分解・修理、改造、ケーブルの被覆を切って他の機器の電源を取るのは絶対におやめください。交通事故や火災、感電、故障の原因となります。

また、本製品の改造や改造した機器を使用した場合は電波法および電気通信事業法違反になります。



機器内部に水や異物を入れない

金属物や燃えやすいものなどが入ると、動作不良やショートによる火災や発煙、発火、感電の原因となります。また、故障の原因となりますので、飲み物などが機器にかからないようご注意ください。



故障や異常な状態のまま使用しない

異物が入った、煙が出る、異音・異臭がするなどの場合は、直ちに使用を中止し、電源ケーブルとDC/DCコンバータ間の中継コネクタを抜いてください。事故や火災、感電の原因となります。



走行中にスマートフォンアプリの操作を絶対しない

必ず安全な場所に停車してご使用ください。交通事故の原因となります。



走行中にコントロールユニットを操作したり、LEDインジケータ表示を注視したりしない

必ず安全な場所に停車してご使用ください。交通事故の原因となります。



本機の動作確認をするために急発進や急ブレーキなど危険な運転を行わない

交通事故の原因となります。



結露が生じたまま本機を使用しない

故障、発熱、感電の原因となります。



本機を落下させる、ぶつけるなど、強い衝撃を与えない

破損や故障の原因となります。



本機の近くに強い磁気があるものを置かない

故障の原因となります。



本機にガソリン、油脂類、有機溶剤、ブレーキフルードなどを付着させない

破損や故障の原因となります。



高圧洗浄機を使用しない

破損や故障の原因となります。



外した中継コネクタはビニールテープなどで水や異物が入らないように保護する

故障の原因となります。



ヒューズは必ず規定容量品を使用し、交換は専門技術者に依頼する

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。

安全上のご注意(必ずお守りください)

医用電気機器近くでの取り扱いについて



植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部から本機を15cm以上離して使用してください。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

異常時のお問い合わせ



異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずご購入の販売店に連絡してください。そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

注意

取り付けや配線について



高圧の水(高圧洗浄機など)のかかる場所や湿気・ほこり・油煙の多い場所に取り付けられない水や油煙などが入ると、発煙や発火、故障の原因となります。



本機の上に物を乗せたりかぶせたりしない
機器の内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。



ケーブルの扱いに注意する

ケーブルに無理な力が加わらないようにたるみを持たせ、可動部は曲げ半径40mm以下に折り曲がらないように設置してください。
また、ケーブルを傷つける、無理に引っ張る、折り曲げる、ねじる、加工する、重いものに乗せる、熱機器に近づけるなどしないでください。断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。



貼り付け面の塗装の劣化に注意する

本機を同梱の両面テープで固定する際は貼り付け面の塗装の劣化にご注意ください。塗装の劣化により粘着力が低下すると脱落の恐れがあります。
また両面テープの粘着力によって車両の外観面に影響がある場合があります。

使用方法について



本機を車載用以外で使用しない

発煙や発火、感電やけがの原因となります。



走行前に本機の取付状態を点検する

本機の脱落、落下などにより、けがや交通事故、本機の故障の原因となります。



高温注意

温度の上昇に注意する

本機は使用状況によって温度が上昇する場合があります。
けがや交通事故の原因となりますのでご注意ください。

本機の異常にお気づきのときは

本機の異常にお気づきのときは、まず「故障かな?と思ったら」(⇒ P.40)を参照して解決方法がないかお調べください。解決方法が見つからないときは、再起動ボタン(⇒ P.13)を押してください。再起動しても正常に戻らないときは、ご購入のサービス会社までご連絡ください。

本機はGPS機器を搭載しています





取得する走行データには、位置情報が含まれます。

安全上のご注意(必ずお守りください)


内蔵電池の取り扱いについて

- 本機の本体ユニットには充電式電池「MSリチウム二次電池」を内蔵しています、取り扱いに注意してください。




危険

-  炎天下や直射日光の強いところなど、異常に高温となる場所に本機を放置しないでください。火災、やけど、けがなどの原因となります。
-  本機の内蔵電池を取り外そうとしないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
-  内蔵電池内部の物質が漏れた場合は、顔や手などの皮膚や衣類などにつけないでください。目や皮膚への傷害などを起こす原因となります。内部の物質が目や口などに入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。また、目や口などに入った場合は、洗浄後直ちに医師の診療を受けてください。
-  内部の物質が目や口などに入った場合は、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。内部の物質などの影響により、失明や体調不良などの原因となります。

警告

-  内蔵電池内部の物質が漏れたり、異臭がしたりするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。漏液した液体に引火し、発火、破裂などの原因となります。

注意

-  本機を落としたら使用を中止してください。本機(本体ユニット)を落としたり、強い衝撃が加わったりした場合は、内蔵電池が損傷している恐れがありますので、使用を中止し、本機の点検・修理を依頼ください。そのまま使用すると、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
-  本体ユニットは内蔵電池を使用しております、一般のゴミと一緒に捨てないでください。火災、やけど、けがなどの原因となります。また、環境破壊の原因となります。
-  不要となった本機(本体ユニット)は、リサイクルのため回収にご協力ください。本体ユニットに内蔵されている充電式電池(MSリチウム二次電池)はリサイクルできます。充電電池の取り外しはお客様自身では行わないでください。不要になりましたら、ご購入の販売店にご相談ください。

使用上のご注意

取り付けについて

- 本機を車両に取り付ける際は、必ずエンジンキーを抜き、不用意にエンジンがかからない状態で作業してください。
- 運転操作の妨げにならない場所に取り付けてください。
- 誤った取り付けをした場合は、衝撃録画が正しく動作しないことがあります。取付方向、取付角度など取扱説明書を参照して本機を正しく取り付けてください。(➡P.16)
- 本機を同梱の両面テープで取り付ける前に、同梱の専用クリーナー、または市販のクリーニングクロスなどのエタノールをしみこませたもので、取付場所の汚れや脂分、ワックスなどをきれいに拭き取り、乾いたことを確認してから取り付けてください。
- 両面テープを再貼付けしたり、汎用の両面テープなどで取り付けると接着が弱くなり本機が脱落する恐れがあります。必ず新しい両面テープに交換して貼り付けてください。また必要に応じて、結束バンドなどを使用して固定してください。
- ケーブル類は、運転操作の妨げにならないように結束バンドで固定するか、市販の結束テープなどでまとめてください。
- 車両のエンジン、マフラー付近など高温になる場所、着座時、サスペンションフルボトム時に当たる、圧迫される場所には設置しないでください。
- 本機を長期間使用しない場合は、電源ケーブルの中継コネクタを外してください。バッテリー上がりの原因となります。外した中継コネクタはビニールテープなどで水や異物が入らないように保護してください。
- 本機が周囲の無線機器に対して影響を与えていないこと、および周囲の無線機器から影響を受けて録画映像が乱れていないことを確認してから使用して下さい。影響がある場合は本機や本機のケーブルを周囲の無線機から遠ざけて下さい。

ご使用について

- 外付カメラのレンズをふさいだり、汚したり、レンズの近くに反射物を置かないでください。
- LED信号機を撮影した場合、信号機がちらついたり点滅しているような映像が録画される場合があります。また信号機の識別や録画を保證するものではありません。
- 録画内容の正確性、完全性、目的適合性に関して、当社は一切の責任を負いません。

- 本機やmicroSDカードに異常が発生していないかの確認を含め、正常に記録されていることを定期的に確認してください。
- 本機の電源がオンになったときに、LEDインジケータが異常表示をしていないか必ず確認してください。
- ご使用前に外付カメラの角度ズレ、本機の取付状態に緩みがないかなど、必ず確認してください。
- 雨天などレンズに水滴が付着していると、映像が不鮮明になる場合があります。

著作権について

- 個人が楽しむ場合であっても、権利者に無断で録画・撮影・録音することはできない場合があります。
- 録画・撮影・録音することが権利者によって許可されていても、個人で楽しむ視聴以外の利用が許可されていない場合があります。

本機のお手入れ

- 本機が汚れたときには、シリコンクロスか柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを付けた布で汚れを落とし、その後クリーナーを拭き取ってください。固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷が付いたり、変形や変質、破損の原因となります。
- レンズが汚れていると画像が鮮明に撮影できません。走行前に外付カメラのレンズに汚れが付着していないことを確認してください。汚れている場合は水で濡らした柔らかい布で軽く拭き取ってください。乾いた布で強くこすると傷の原因となります。
- レンズに市販の撥水コート剤などを塗ると、レンズの性能が損なわれ、映像が劣化する場合があります。また、撥水コート剤が本機の塗装面に付着すると塗装が劣化する場合があります。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

使用上のご注意

本機で推奨するmicroSDカードについて

タイプ	microSDHC microSDXC
容量	32GB~128GB
スピードクラス	Class10 推奨
ファイルシステム	FAT32 exFAT

- すべてのmicroSDカードの動作を保証するものではありません。
- 繰り返し録画に適した耐久性の高いドライブレコーダー向けmicroSDカードを使用することを推奨します。
- microSDカードを本機で初めて使用するとき、LEDインジケーターがエラーを表示することがあります。microSDカードのフォーマットをすることで正常にご使用いただけます。

microSDカード使用上のご注意

- 市販のmicroSDカードを使用するときは、microSDカードに付属している取扱説明書もあわせてご確認ください。
- microSDカードを入れる、または取り出すときは、本機の電源を必ずオフにしてください。電源がオンの場合、データやmicroSDカード自体が破損する恐れがあります。
- microSDカードは必ず本機でフォーマットを行なってから使用してください。
- microSDカードを入れた後は、正しく録画ができていないか必ず確認してください。録画の確認に関しては(⇒P.30)を参照してください
- microSDカードには書き込み可能回数などの製品寿命があります。使用状況に応じて定期的に新品に交換することをお勧めします。

- microSDカードを挿したり、抜いたりするときは、方向を確認し、折り曲げたり、強い圧力や衝撃を与えないでください。端子部分に直接手を触れたり、金属を当てたりしないでください。静電気により、記憶されているデータが破損、消失する恐れがあります。
- microSDカード内の必要なファイルは必ずパソコンなどに早めのバックアップ(コピー)をしてください。microSDカードの使用状況によっては、保存内容が失われる場合があります。保存内容が失われたことによる損害については、当社はその補償を一切いたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機のmicroSDカードフォーマットや削除、パソコンの機能によるフォーマットでは、ファイルの管理情報が変更されるだけで、microSDカード内のデータは完全に消去されません。使用を中止する際は、市販のパソコン用データ消去ソフトなどを使ってmicroSDカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。microSDカード内のデータはお客様の責任において管理してください。
- microSDカードは消耗部品です。使用状況に応じて定期的に新品に交換することをお勧めします。
- microSDカードは普通に使用していても正常に書き込みや消去ができなくなる場合があります。
- 約1か月を目安として定期的にmicroSDカードをフォーマットしてください。
- microSDカードの上に物を置いたり落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、清潔で乾燥した場所に保管し、高温高湿の場所で放置しないでください。
- microSDカードに起因する機器の不具合は保証対象外となります。

- microSDカードのフォーマットはスマートフォンアプリから行います。
- スマートフォンアプリについては(⇒P.28)を参照してください。

使用上のご注意

ファームウェアの自動更新について

- 本機には更新用ファームウェアを自動でダウンロードし、ダウンロード後の最初の本機起動時に自動でファームウェアを更新する機能があります。お客さまに操作をしていただく必要はありませんが、ファームウェア更新完了までに数分間かかることがあります。
- ファームウェア更新中はコントロールユニットのステータスLED1が薄紫色に点灯しています、ファームウェア更新中は絶対に本機の電源をオフ(車両のエンジンをオフ)にしたりmicroSDカードを抜いたりしないでください。
- ファームウェア更新中に本機の電源がオフになった場合は、次回の電源オン時に再度ファームウェア更新の自動更新を実行します。
- ファームウェア更新中は本機の録画機能、ボタン操作など全ての機能は動作しません。

内蔵電池について

- 本機は時計のバックアップをするため「MSリチウム二次電池」を内蔵しています。
- 購入直後は電池が十分に充電されていません。時刻がリセットされるときは、本機の電源を1～2時間オンにして充電してください。
- 周囲温度が-20℃～45℃の場所で充電してください。範囲外の温度では、十分に充電されない場合があります。
- エンジンを動かさない状態(ACC ONのみの状態)で、充電はしないでください。車両のバッテリー上がりの原因となります。

使用上のご注意

無線についてのお願い

- 本機は、電波を利用して情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に無線接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者に通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されたりする可能性があります。
お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、利用することを推奨します。
- 無線機能を利用した通信時にデータや情報の漏洩が発生した場合は責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
日本国内のみで使用してください。日本国内以外で使用すると各国の電波法に抵触する可能性があります。以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
 - 分解・改造すること
 - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数帯について

- 本機の周波数表示と意味は下記の通りです。
 - 2.4 : 2.4GHz 帯を利用する無線設備を示します。
 - FH/DS : 変調方式がFH-SS、DS-SSであることを示します。
 - OF : 変調方式がOFDMであることを示します。
 - 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示します。
 - 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。
 - — — : 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能です。

2.4FH1/DS4/OF4

2.4GHz 機器使用上の注意事項

2.4GHz 帯の周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数帯を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記の事項に注意してご使用ください。


使用上のご注意

本機の使用周波数帯(2.4GHz)では、電子レンジなどの産業・化学・医療機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- ① 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ② 万が一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、本機の使用を停止してください。

本機の比吸収率(SAR)について

人体のそばで使用される無線デバイスに対して、比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)での許容値(2W/kg)が定められています(四肢は4W/kg)。これに伴い本機種では設置個所や使用用途より、人体へ最大2cmまで接近することを考慮しています。本機種のSAR最大値は0.579W/kg(Body SAR, 2cm)であり、個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。

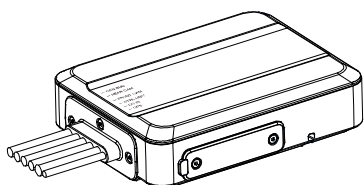
(参考) [総務省の電波利用ホームページ](#)  [一般社団法人電波産業会のホームページ](#) 

同梱品

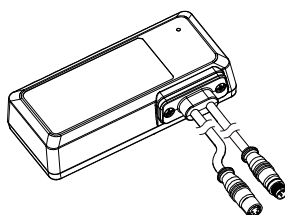
本機を取り付ける前に、すべての部品がそろっていることを確認してください。

本セットにはカメラは同梱されていません、必要に応じて専用外付カメラSTZ-DR30CUをご購入ください。

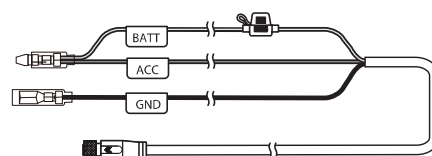
本体ユニット



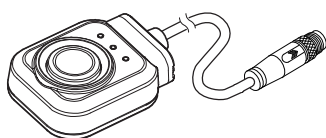
DC/DCコンバータ



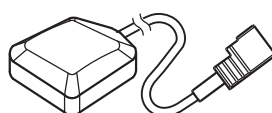
電源ケーブル



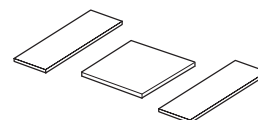
コントロールユニット
(両面テープ付き)



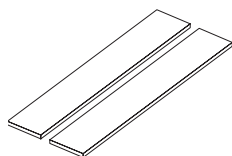
GPSアンテナ
(両面テープ付き)



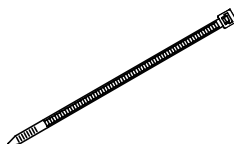
両面テープ
(本体ユニット用)



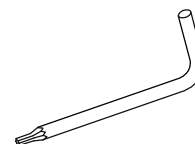
両面テープ
(DC/DCコンバータ用)



結束バンド x4



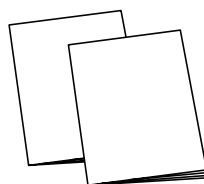
サイドドア専用レンチ



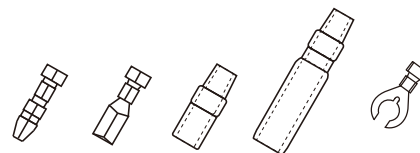
専用クリーナー



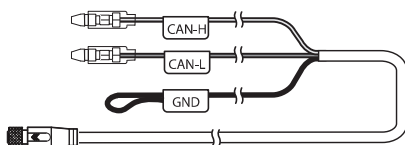
- ・取扱説明書～基本事項編～
- ・About software license



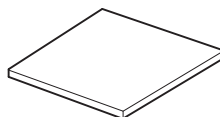
- ・ギボシ端子(オス)x1、(メス)x1
- ・スリーブ(オス用)x1、(メス用)x1
- ・クワ型端子 x2



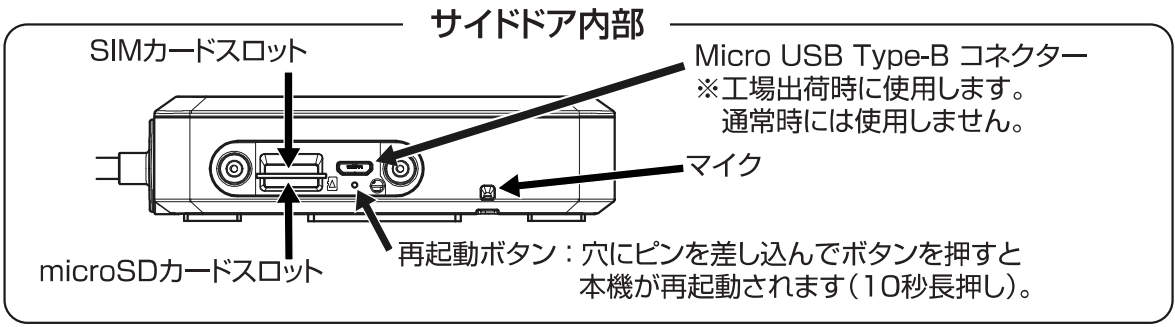
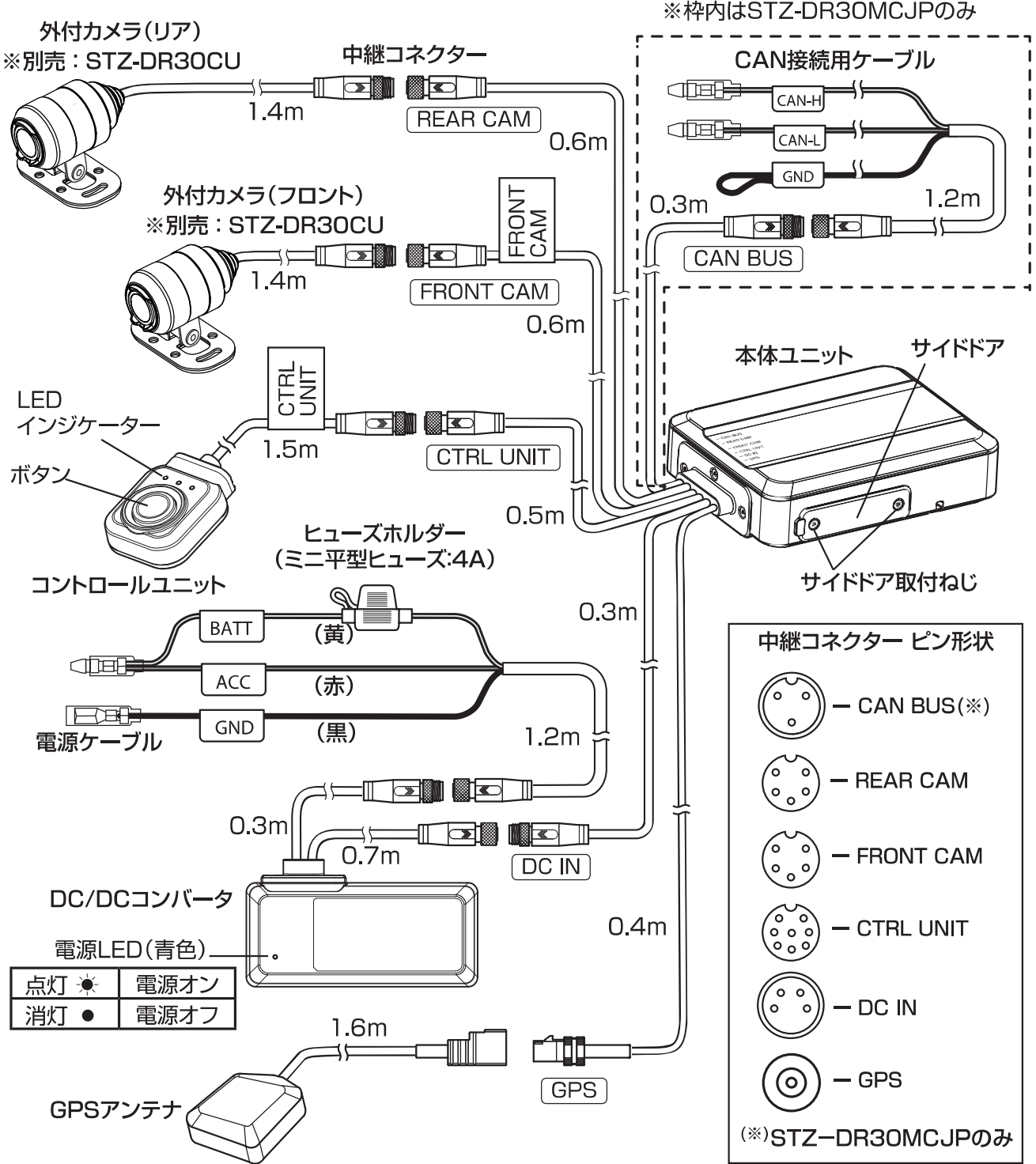
CAN接続用ケーブル
※STZ-DR30MCJP のみ同梱



コネクター保護テープ
※STZ-DR30MBJP x5+予備1
※STZ-DR30MCJP x6+予備2



各部の名称と接続

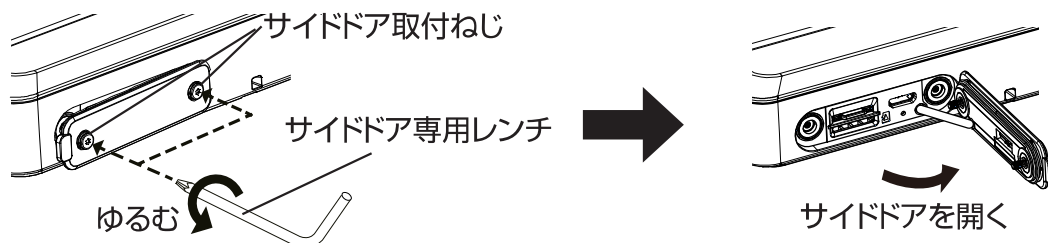


取り付け方法

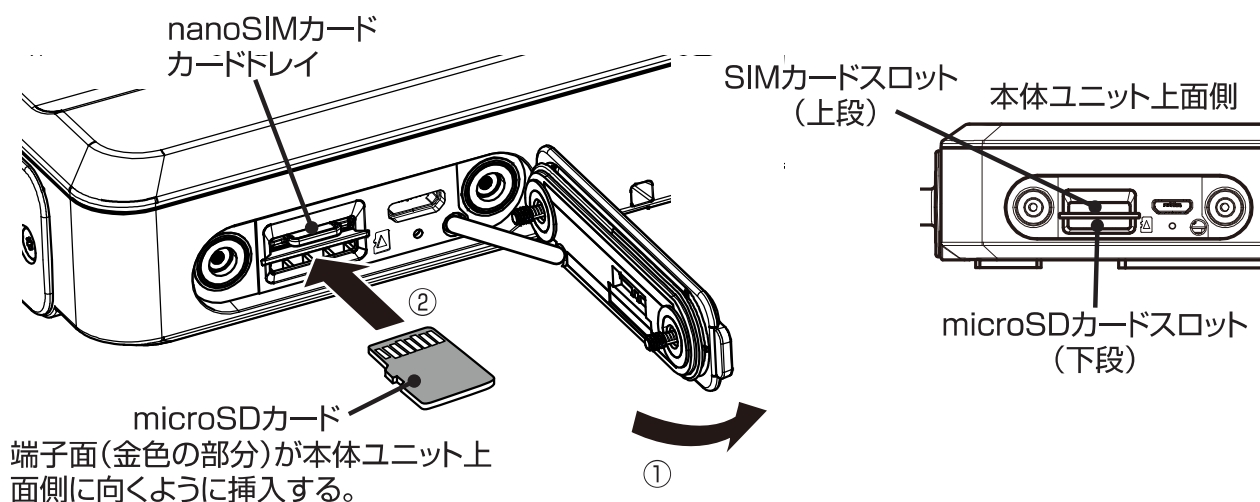
microSDカードの挿入と取り外し

■ microSDカードの挿入のしかた

- ① サイドドア専用レンチ(同梱品)でサイドドア取付ねじ(2箇所)を緩め、サイドドアを開きます。



- ② microSDカードをmicroSDカードスロットに、カチッという音が聞こえるまで挿入します。



- ③ サイドドアを閉じて、サイドドア専用レンチでサイドドア取付ねじ(2個)を締め付けます。



- microSDカードを挿入または取り外す前に、必ず本機の電源をオフにしてください。
- SIMスロットにmicroSDカードを誤挿入すると本機を破損する恐れがあります。誤挿入防止のため、microSDカードの挿入は、必ずSIMカードスロットにnanoSIMカードのカードトレイが挿入されている状態でおこなってください。
- 初めて使用する前に、本機を使用して、microSDカードをフォーマットすることを強くおすすめします。microSDカードをフォーマットする場合は、「microSDカードをフォーマットする」(→P.9)を参照してください。

■ microSDカードの取り外しかた

- ① サイドドア専用レンチ(同梱品)でサイドドア取付ねじ(2箇所)を緩め、サイドドアを開きます。
② microSDカードを軽く押し込むとmicroSDカードがスロットから少し飛び出します。
③ 飛び出したmicroSDカードの先端を掴み、microSDを取り外します。
④ サイドドアを閉じて、サイドドア専用レンチでサイドドア取付ねじ(2箇所)を締め付けます。



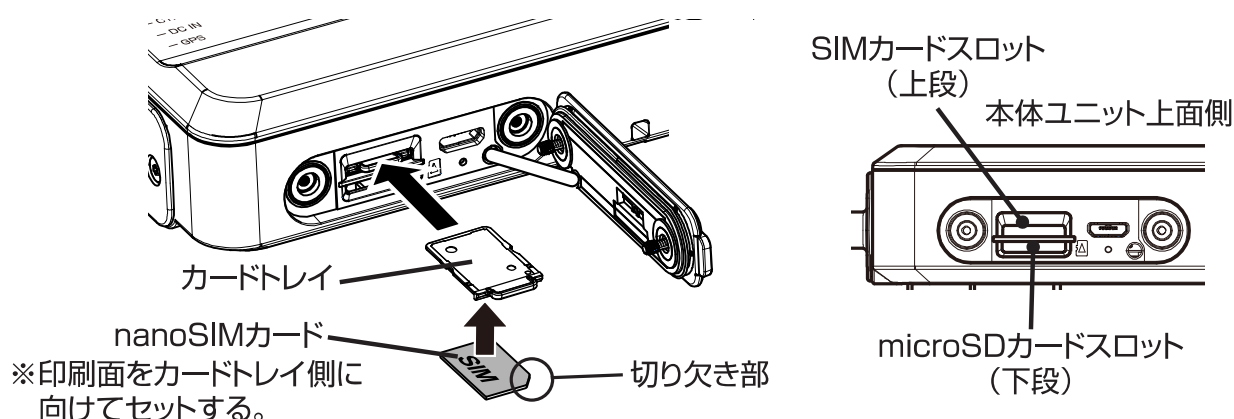
- サイドドアは浮きや隙間のないように確実に閉めてください。
水や異物が入り込み故障の原因となります。

取り付け方法

nanoSIMカードの挿入と取り外し

■ nanoSIMカードの挿入のしかた

- ① サイドドア専用レンチ(同梱品)でサイドドア取付ねじ(2箇所)を緩め、サイドドアを開きます(➡ P.14)。
- ② カードトレイのつまみを掴んで引き抜き、nanoSIMカードをセットします。
※nanoSIMカードは、印刷面をカードトレイ側に向け、切り欠き部がカードトレイの形状に合うようにセットしてください。
- ③ カードトレイを、nanoSIMカードをセットした面が本体下面に向くように、SIMカードスロットの奥まで挿入します。



- ④ サイドドアを閉じて、サイドドア専用レンチでサイドドア取付ねじ(2箇所)を締め付けます。



- nanoSIMカードの取り付け、取り外しの前に、必ず本機の電源をオフにしてください。
- microSDカードスロットにカードトレイを誤挿入することを防止するため、カードトレイの挿入は、必ずmicroSDカードスロットにmicroSDが挿入された状態でおこなってください。

■ nanoSIMカードの取り外しかた

- ① サイドドア専用レンチ(同梱品)でサイドドア取付ねじ(2箇所)をゆるめ、サイドドアを開きます。
- ② カードトレイのつまみを掴んで、SIMカードスロットからカードトレイを引き出します。
- ③ カードトレイからnanoSIMカードを取り外してください。
- ④ サイドドアを閉じて、サイドドア専用レンチでサイドドア取付ねじ(2箇所)を締め付けます。



- サイドドアは浮きや隙間のないように確実に閉めてください、水や異物が入り込み故障の原因となります。
- カードトレイをSIMカードスロットから引き出す際に、nanoSIMカードを落下、紛失しないようご注意ください。
- カードトレイは紛失しないよう大切に保管してください。

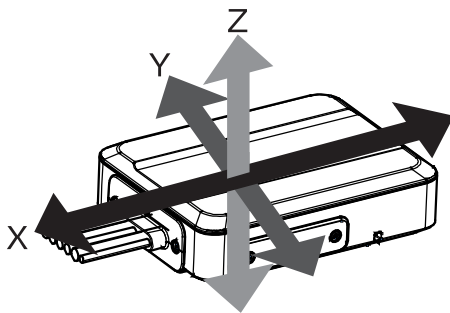
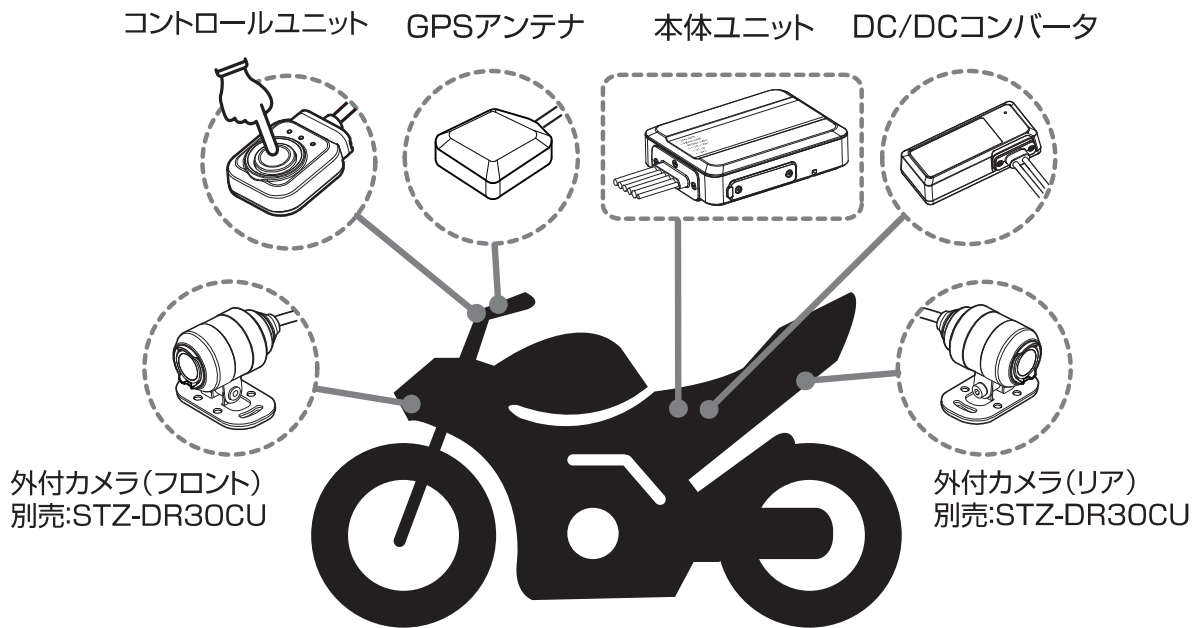
取り付け方法

取り付け手順

1. レイアウトを決める

下図を参考に本体ユニット、DC/DCコンバータ、外付カメラ、コントロールユニット、GPSアンテナの取り付け位置を決めてください。

※下図はバイクへの取り付け参考例です、実際の車両に合わせてレイアウトしてください。



本体ユニットのケーブル側を車両の前方に向けて取り付ける事で、ビューアソフトのGセンサーチャートの向きが前後(X)、左右(Y)、上下(Z)で表示されます。

※ビューアソフトについてはビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う(⇒P.33)をご参照下さい。

ご注意

- 本体ユニットは金属で周囲を囲われた位置に取り付けしないでください。電波が遮られ、無線LAN通信、LTE通信、Bluetooth通信ができなくなることがあります。
- GPSアンテナは衛星電波を受信しやすいように、天面側を金属などで覆われていない、また周囲の金属物から2cm以上離れた位置に、上面を上に向けて取り付けてください。

取り付け方法

レイアウトを決める（前ページつづき）



- 本機を両面テープで取り付け際には、必ず同梱の両面テープを使用して、車両側の平らな場所に、同梱の専用クリーナー、または市販のクリーニングクロスなどにエタノールをしみこませたもので、取付場所の汚れや脂分、ワックスなどをきれいに拭き取り、乾いたことを確認してから取り付けてください。
- 同梱の両面テープでの取り付け作業時の環境温度は15℃以上が推奨です。また貼り付け後24時間以上、衝撃を加えないよう放置いただくことで、より接着強度が増します。
- 再貼り付けの際はオプション販売品の両面テープを使用してください。再使用や汎用の両面テープなどで取り付けると接着が弱くなり本機が落下する恐れがあります。
- 車両のエンジン、マフラー付近など高温になる場所、着座時、サスペンションフルボトム時に当たる、圧迫される場所には設置しないでください。
- ケーブルは結束バンドなどで脱落しないように固定してください。不確実な配線、固定は脱落、故障、火災や事故の原因となります。

取り付け方法

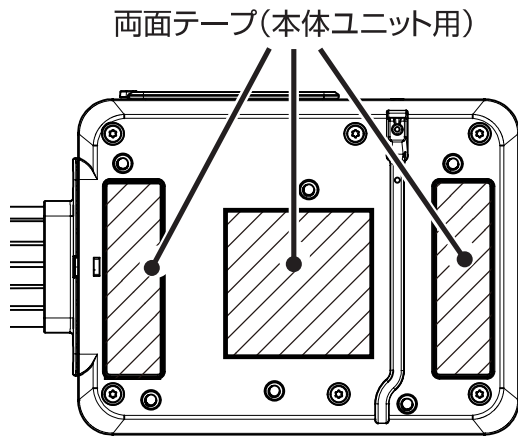
2. 本体ユニットの取り付け

本体ユニットを車両に取り付けます。

※本体ユニットを車両に固定するときは、サイドドアを開いて、microSDカード、nanoSIMカードを抜き差しするために十分なスペースがあることを確認してください。

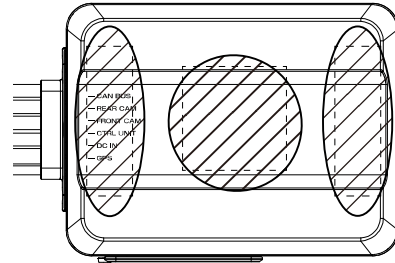
両面テープで取り付ける場合

同梱の両面テープ(本体ユニット用)を下図のように本体ユニットの下面に貼り付け、車両に固定してください。



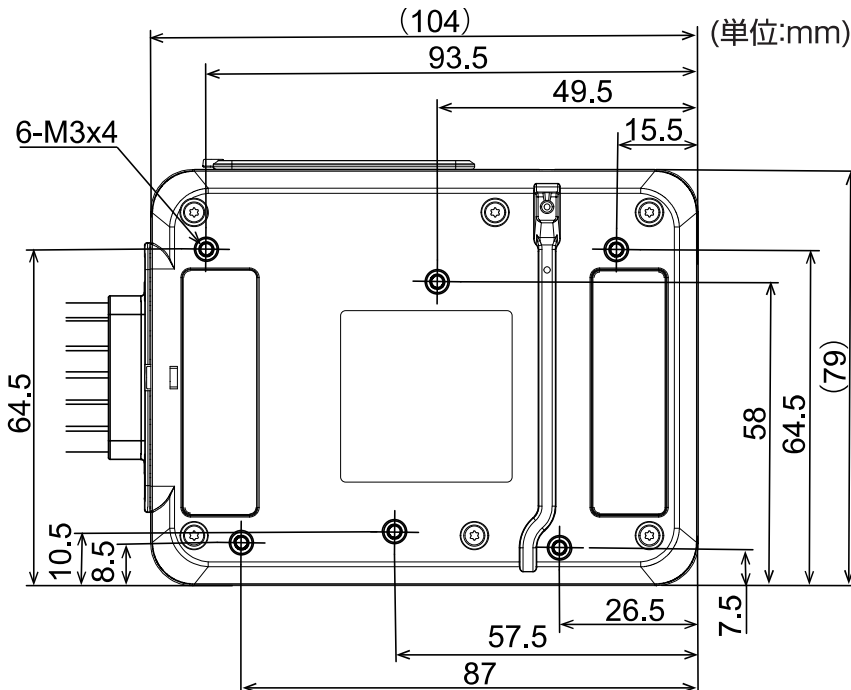
ご注意

車両に貼り付け後、本体ユニット上面から下図の斜線部分を目安に、両面テープ付近をよく押し付けてください。



ねじで取り付ける場合

取付金具などにねじで取り付ける場合は、金色のナット部(6箇所)を使用してください。お客様で取付金具をご用意される場合は、下図のねじ位置寸法をご参照ください。



ご注意

- 取付金具、ねじ類は付属しておりません、別途ご用意ください。
- 穴寸法は直径4mmとしてください。
- ねじの長さはナット部に3~4mm掛かるものを使用してください。
- ねじは必ず6箇所全てを使用してとめてください。

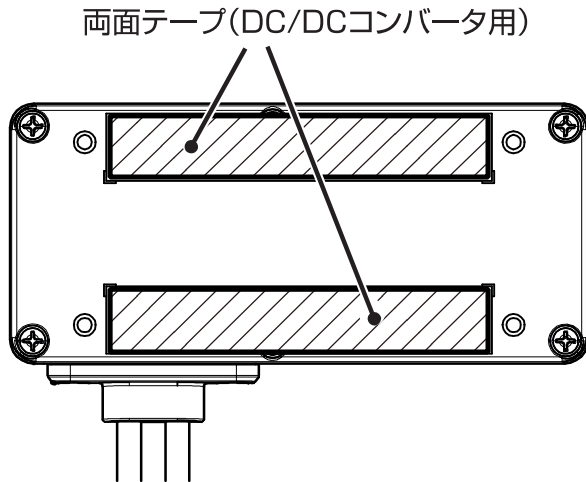
取り付け方法

3. DC/DCコンバータの取り付け

DC/DCコンバータを車両に取り付けます。

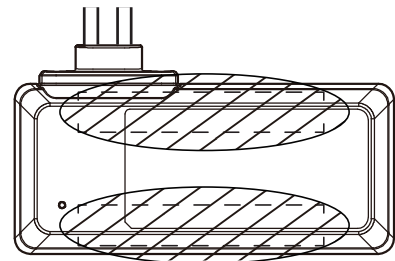
両面テープで取り付ける場合

同梱の両面テープ(DC/DCコンバータ用)を下図のようにDC/DCコンバータの下面に貼り付け、車両に固定してください。



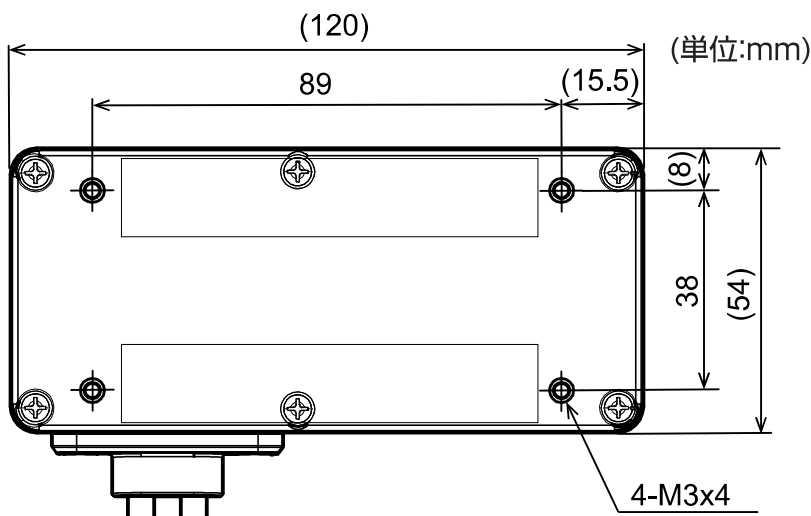
ご注意

車両に貼り付け後、DC/DCコンバータ上面から下図の斜線部分を目安に、両面テープ付近をよく押し付けてください。



ねじで取り付ける場合

取付金具などにねじで取り付ける場合は、金色のナット部(4箇所)を使用してください。お客様で取付金具をご用意される場合は、下図のねじ位置寸法をご参照ください。



ご注意

- 取付金具、ねじ類は付属しておりません、別途ご用意ください。
- 穴寸法は直径4mmとしてください。
- ねじの長さはナット部に3~4mm掛かるものを使用してください。
- ねじは必ず4箇所全てを使用してください。

取り付け方法

4. 外付カメラの取り付け

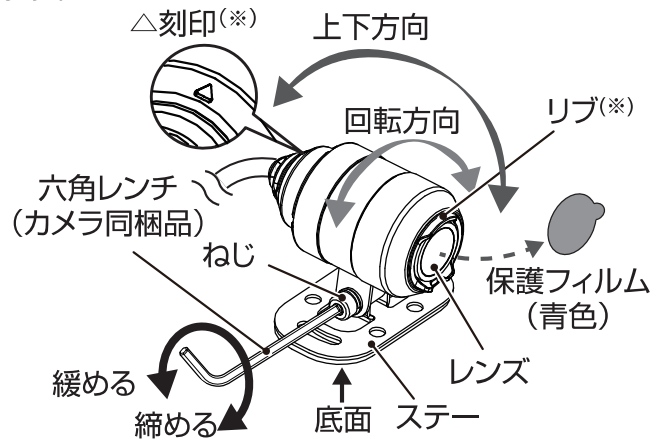
外付カメラSTZ-DR30CU(別売)を取り付けます。

① 外付カメラ(フロント、リア)の取付位置を選定します。

- レンズ面の青色の保護フィルムを剥がしてください。
- 外付カメラの視野になるべく車両部分が写り込まない場所を選定してください。
- 同梱の六角レンチを使用してステーのねじを緩めると、上下方向、回転方向に外付カメラの向きを調整できます。

お知らせ

- 外付カメラのレンズ面への雨滴付着は、画質が低下する原因となります。外付カメラを水平より下に傾けて取り付けると、レンズへの雨滴付着を低減することができます。

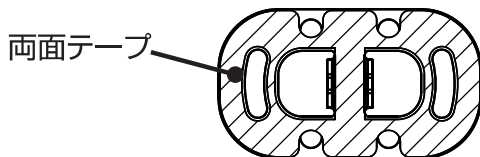


(※)外付カメラは△刻印および切り欠きがないリブが天面になるように取り付けてください。

② 外付カメラを車両に固定します。

両面テープで取り付ける場合

同梱の両面テープを、下図のようにステー底面に貼り付け、車両に取り付けてください。

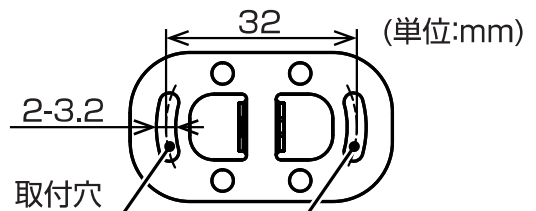


ご注意

- 車両側の取付面が曲面の場合、ステー底面が浮いて十分な接着力が得られない場合があります。ステー底面を工具などで車両の曲面に沿うように曲げてから取り付けることで、接着力を増すことができます。

ねじで取り付ける場合

お客様で取付金具をご用意される場合は、下図の取付穴位置寸法をご参照ください。



ご注意

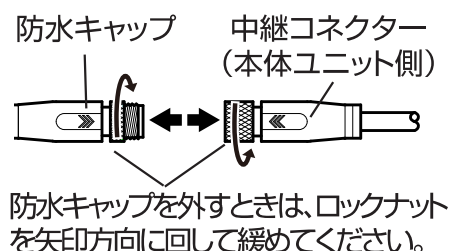
- ねじ類は付属しておりません、別途ご用意ください。
- 取付穴は2箇所とも使用して固定してください。

③ 外付カメラの向きを固定します。

調整後、ねじを締めて固定してください。

防水キャップについて

- ご購入時は本体ユニット側カメラケーブルの中継コネクタに防水キャップが着いています。外付カメラと接続する際には取り外してください。
- 外付カメラを接続しない時は、防水キャップを着けたままご使用ください。この時、ロックナットが緩んでいないか確認し、コネクタ保護テープを巻いてください。(→P.24参照)



防水キャップを外すときは、ロックナットを矢印方向に回して緩めてください。

取り付け方法

5. コントロールユニットの取り付け

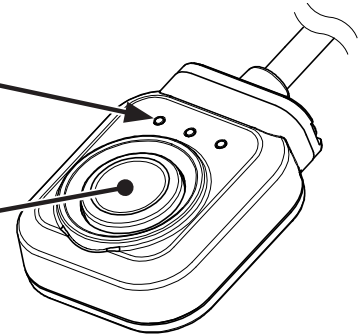
コントロールユニットを車両に取り付けます。

- ボタンを簡単に操作でき、LEDインジケータを視認しやすく、安全な運転操作を妨げない場所に取り付けてください。
- コントロールユニット裏面に貼られている両面テープの剥離紙をはがして車両に取り付けてください。

LEDインジケータ
点灯パターンで本機の状態を表示します。
(⇒P.26参照)

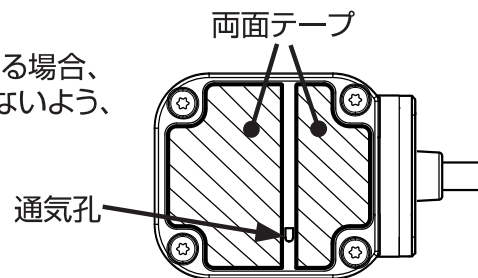
ボタン ※本機の操作をおこないます。

ボタン操作	状態	常時録画中	無線LANモード中
長押し (3秒以上、7秒未満)		無線LANモード に移行	常時録画に移行
短押し (1秒以下)		手動録画開始	—



ご注意

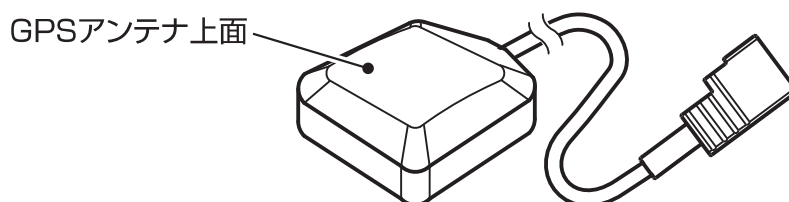
別売の両面テープに貼り替えてご使用になる場合、コントロールユニット底面の通気孔を塞がないよう、右図の向きに貼り付けてください。



6. GPSアンテナの取り付け

GPSアンテナを車両に取り付けます。

- 衛星電波を受信しやすいように、天面側が金属などで覆われていない、また周囲2cm以内に金属などの部品がない位置に、上面を上に向けて取り付けてください。
- GPSアンテナの裏面に貼り付けられている両面テープの剥離紙を剥がして取り付けます。



取り付け方法

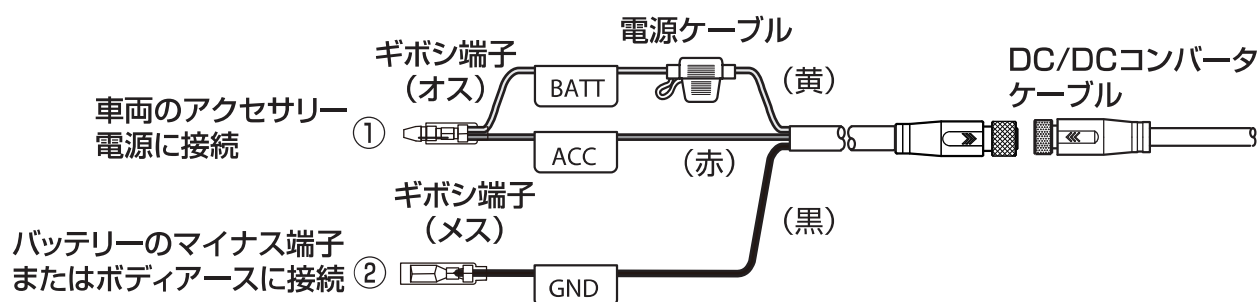
7. 電源ケーブルの接続

CAN対応モデルと非対応モデルで配線が異なります。それぞれの配線方法に従って接続してください。

STZ-DR30MBJPの接続（CAN非対応モデルの接続）

電源ケーブルの各ケーブルを下記の順番で車両に接続します。

- ① 電源ケーブル(黄/赤)のギボシ端子を車両のアクセサリ電源に接続する。
- ② 電源ケーブル(黒)のギボシ端子をバッテリーのマイナス端子又はボディアースに接続する。



(※)ケーブル先端は必要に応じて加工してください。



- 電源ケーブルの接続時は、ショートを防ぐために、エンジンキーを抜いてください。
- バッテリー端子を外す時はマイナスから外し、すべてのケーブルが端子に接していないことを確認後、プラス端子を外します。接続はプラス端子から行います。
- 必要に応じて本機の電源ケーブル端子、又は車両側の電源ケーブル先端を加工して接続してください。
- 配線接続が困難な場合は、専門の技術者にお任せください。取り付けや配線を間違えると、車両に重大な損傷を与え、事故を引き起こす可能性があります。
- ヒューズホルダーは非防水です、水が掛からない場所に設置してください。

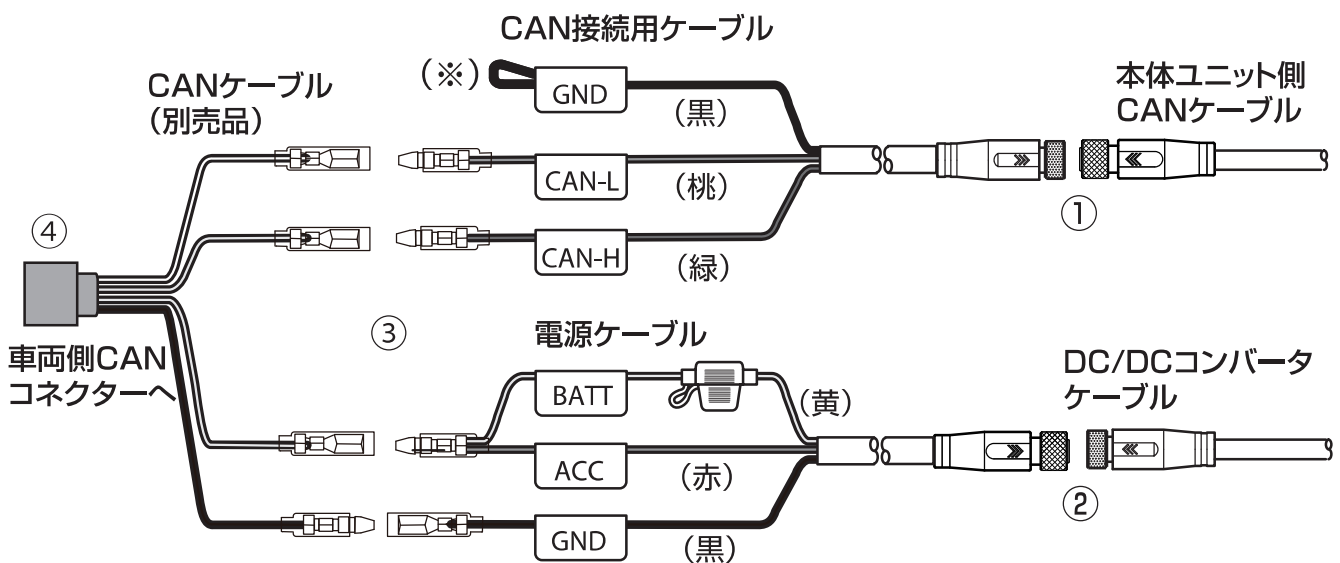
取り付け方法

電源ケーブルの接続(前ページつづき)

STZ-DR30MCJPの接続 (CAN対応モデルの接続)

電源ケーブル(同梱品)、CAN接続用ケーブル(同梱品)、CANケーブル(別売品)を下記のように車両のCANコネクタに接続します。

- ① CAN接続用ケーブルと本体ユニット側CANケーブルの中継コネクタを接続する。
- ② 電源ケーブル(同梱品)とDC/DCコンバータケーブル(オス側)の中継コネクタを接続する。
- ③ 電源ケーブルとCAN接続用ケーブルをCANケーブル(オプション品)のギボシ端子と接続する。
- ④ CANケーブルを車両側のCANコネクタに接続する。



(※) 必要に応じてケーブル先端を加工し、バッテリーのマイナス端子、またはボディアースに接続してください。



- 電源ケーブルの接続時は、ショートを防ぐために、エンジンキーを抜いてください。
- バッテリー端子を外す時はマイナスから外し、すべてのケーブルが端子に接していないことを確認後、プラス端子を外します。接続はプラス端子から行います。
- 必要に応じて本機の電源ケーブル端子、又は車両側の電源ケーブル先端を加工して接続してください。
- 配線接続が困難な場合は、専門の技術者にお任せください。取り付けや配線を間違えると、車両に重大な損傷を与え、事故を引き起こす可能性があります。
- ヒューズホルダーは非防水です、水が掛からない場所に設置してください。

取り付け方法

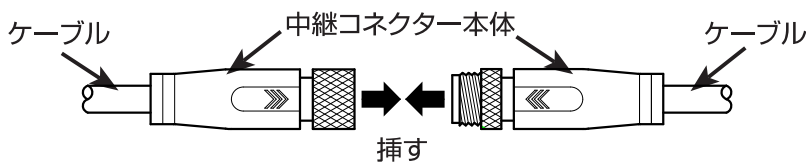
8. 中継コネクタの接続

各部の名称と接続(➡ P.13)を参照し、各ケーブルの中継コネクタを接続します。

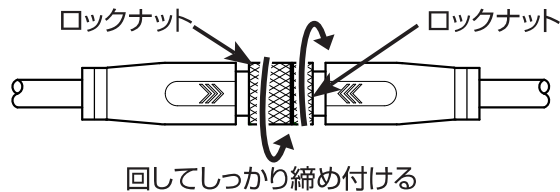
■中継コネクタ(丸型)

①中継コネクタを挿入する。

接続する中継コネクタのピン形状を確認し、ピンの向きを合わせて挿入してください。

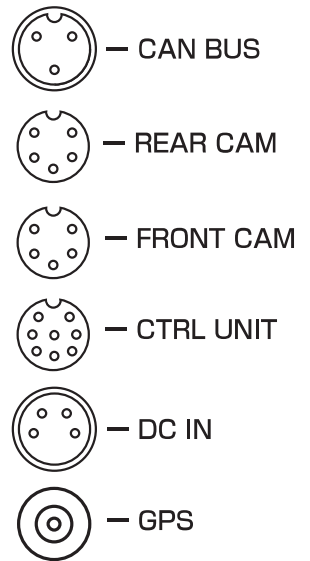


② ロックナットを締めて接続を固定する。



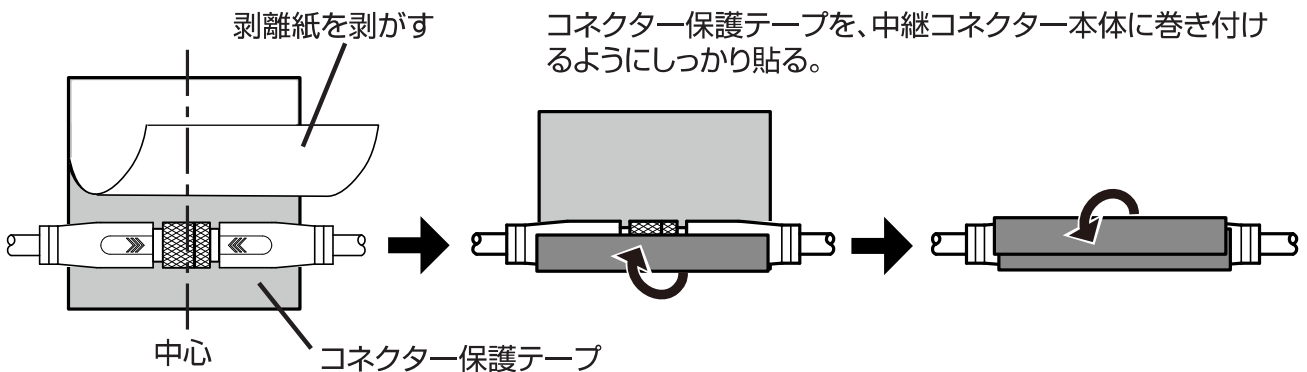
中継コネクタ(丸型コネクタ)を取り外す場合
 接続時と反対方向にロックナット回して固定を解除し、中継コネクタ本体を持ってケーブルを抜いてください。

中継コネクタピン形状



③中継コネクタにコネクタ保護テープ(同梱品)を巻く。

コネクタ保護テープの剥離紙を剥がし、中継コネクタのロックナット部が中央付近になるように位置を合わせ、中継コネクタ本体に巻き付けるように貼ってください。

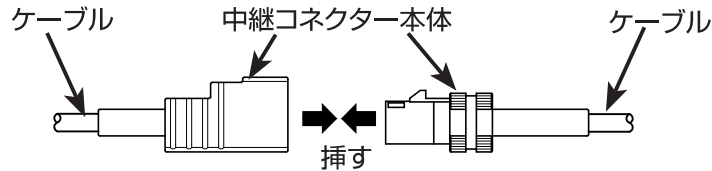


※コネクタ保護テープは必ず使用してください。ロックナットの緩みや車両への傷付けの原因となります。

取り付け方法

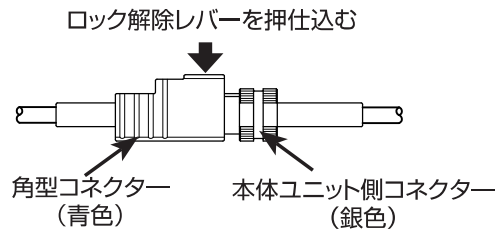
■中継コネクタ(角型)

爪の位置を合わせて「カチッ」と音がするまで挿入してください。



中継コネクタ(角型)を取り外す場合

GPS側の角型(青色)コネクタのロック解除レバーを押し込みながら、本体ユニット側(銀色)のコネクタを引き抜いてください。



- ケーブル部分を持って中継コネクタの抜き差しをするとケーブルが破損する可能性があります、必ず中継コネクタ本体を持って抜き差ししてください。

9. ケーブルを車両に固定

結束バンド、ビニールテープなどで、各ケーブルを車両に固定します。
運転者による車両の運転を妨げないようにしてください。



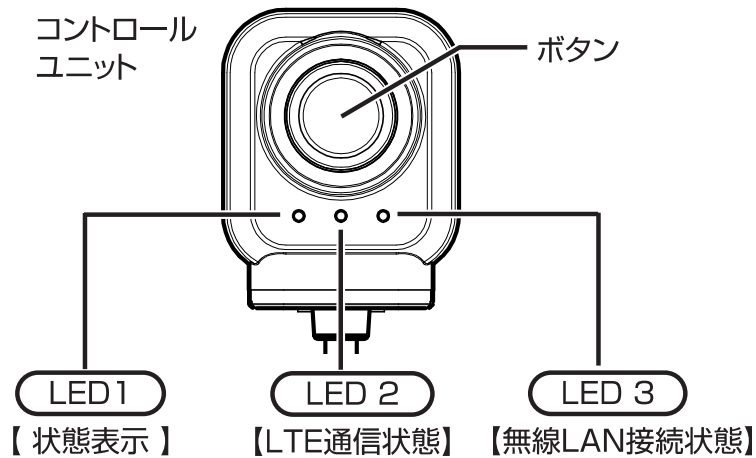
- ケーブルを固定する時は、ハンドルを左右ロックできること、サスペンションがフルボトムしても支障がないことを確認してください。

10. 動作確認

以上で取り付け作業は完了です、動作確認をします。

- ① 車両のエンジンキーを「ACC」または「ON」にすると、本機の電源がオンになり、起動時システムチェック(⇒ P.26参照)完了後に常時録画が開始されます。
- ② エンジンキーをオフにすると本機の電源が自動的にスリープモード(⇒ P.26参照)になります。
※DC/DCコンバータのバッテリーが満充電の場合、スリープモードから電源オフまでに15分程度かかります。

ステータスLED表示



LED 2 LTE通信状態 (青色)

LED点灯パターン	状態
青 点灯	LTE通信中
青 0.5秒間隔で点滅	LTE電波が弱い
青 0.2秒間隔で点滅	LTE圏外 SIMカード未挿入
消灯	SIMカード異常 /認識不可














LED 3 無線LAN接続状態 (青色)

LED点灯パターン	状態
青 点灯	無線LANオン
青 0.5秒間隔で点滅	無線LAN接続中
消灯	無線LANオフ

LED 1 状態表示 (青色/橙色/薄紫色)

モード	LED点灯パターン	状態
通常動作	青 青色に点灯	常時録画中
	橙 2.8秒間隔で橙色が0.2秒間点灯	スリープモード中
	橙 青 橙 青 0.5秒間隔で橙⇄青に交互に点灯 (起動から常時録画開始までの間)	起動時システムチェック中 (スリープモードからの復帰を除く)
	橙 橙色に1秒間点灯 (イベント検知後1秒間)	・イベント検知 (衝撃、速度超過)
イベント表示 (正常)	橙 0.5秒間隔で橙色に点滅 (イベント録画中)	・イベント録画中 (衝撃、速度超過) ・手動録画中
	橙 0.2秒間隔で橙色に点滅 (検知後1秒間)	走行時間警告 (走行時間が2時間を超えたことを検知)

ステータスLED表示

LED 1 (前ページつづき)		
モード	LED点灯パターン	状態
システム状態表示 (正常)	薄紫  薄紫色に点灯	ファームウェア更新中
	薄紫  0.2秒間隔で薄紫色に点滅	SDカードフォーマット中
	青  2.8秒間隔で青色に0.2秒間点灯	録画停止中 ※外付カメラの録画設定がフロント、リアの両方ともオフの場合
	薄紫  薄紫色に点灯 (再起動ボタンとコントロールユニットのボタンを同時に長押しし続けると、7秒後からの4秒間点灯)	ファクトリーリセット実行可能状態 ※点灯中にボタン離すことでファクトリーリセットが開始されます ※ファクトリーリセットについては (→P.31) をご参照ください
	薄紫  0.2秒間隔で薄紫色に点滅 (開始後5秒間)	ファクトリーリセット開始表示
エラー表示	薄紫  0.5秒間隔で薄紫色に点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・SDカード未挿入 ・SDカード異常/認識不可 ・非対応SDカード検出 ・SDカード空き容量不足 ・異常検出による録画停止
	青  0.2秒間隔で青色に点滅	録画中に高温になった (閾値Lv2)
	青  0.5秒間隔で青色に点滅	録画中に高温になった (閾値Lv1)
	青 橙 青 橙 青 橙 青 橙 青 橙  0.2秒間隔で青⇔橙に交互に点灯 (5秒間)	高温時に電源がオフされる場合
	青 薄紫 青 薄紫  0.5秒間隔で青⇔薄紫に交互に点灯	外付カメラ(リア)異常 ※電源起動時に接続されていたリア側外付カメラの接続が解除された場合
	橙 薄紫 橙 薄紫  0.5秒間隔で橙⇔薄紫に交互に点灯	外付カメラ(フロント)異常 ※電源起動時に接続されていたフロント側外付カメラ、または全ての外付カメラの接続が解除された場合
	薄紫 青 薄紫 青 薄紫 青 薄紫 青 薄紫 青  0.2秒間隔で薄紫⇔青に交互に点灯(30秒間)	GPS異常 ※GPS圏外を除く異常が発生した場合。
	薄紫  0.2秒間隔で薄紫色に点滅	システム更新エラー ※システム更新が完了できなかった

スマートフォンアプリを使う

お手持ちのスマートフォンにスマートフォンアプリをインストールすることで、本機とスマートフォンを連携することができます。

スマートフォンアプリをインストールする

お知らせ

スマートフォンアプリはご購入のサービス会社の仕様によって異なります。
スマートフォンアプリの入手・インストール・操作方法はご購入のサービス会社にお問い合わせください。

スマートフォンと本機を無線LAN接続する

本機側の操作

無線LANモードを開始する

- ① 本機が常時録画モードになっていることを確認します(LED1が青色に点灯)。
- ② コントロールユニットのボタンを長押し(3秒～7秒)して、無線LANモードに切り替えます。
 - ・無線LANモードに切り替わるとステータスLED3が青色に点灯します。
 - ・スマートフォンと接続されると、ステータスLED3が0.5秒間隔で青色に点滅します。

無線LANモードを終了する

- ① コントロールユニットのボタンを長押し(3～7秒)します。
- ② 無線LANモードが終了して、ステータスLED3が消灯します。



- ・無線LANモード時は、録画機能(常時録画、イベント録画)が停止します。

スマートフォン側の操作

初回接続時はスマートフォン側の設定が必要になります、2回目以降は自動的に接続されます。
※スマートフォンの機種によって設定手順が異なる場合があります。お使いのスマートフォンの取扱説明書の指示に従って設定してください。

- ① スマートフォンの[設定]を開きます。
- ② [Wi-Fi]設定をオンにします。
- ③ [利用可能]なネットワーク一覧が表示されます。
- ④ 一覧から[STZー **WLAN MACアドレス**]を選択してタップします。



WLAN MACアドレスは、本体ユニットのラベルをご確認ください(12桁)。

- ⑤ パスワードを入力し、[接続]をタップして本機に接続します。



- ・初期パスワードは「12341234」です。
 - ※セキュリティ対策の為、パスワードは定期的に変更することをお勧めします。
 - ※パスワードの変更はご購入の販売店にお問い合わせください。
- ・パスワードの設定は初回接続時のみ必要です、次回からは自動的に接続されます。

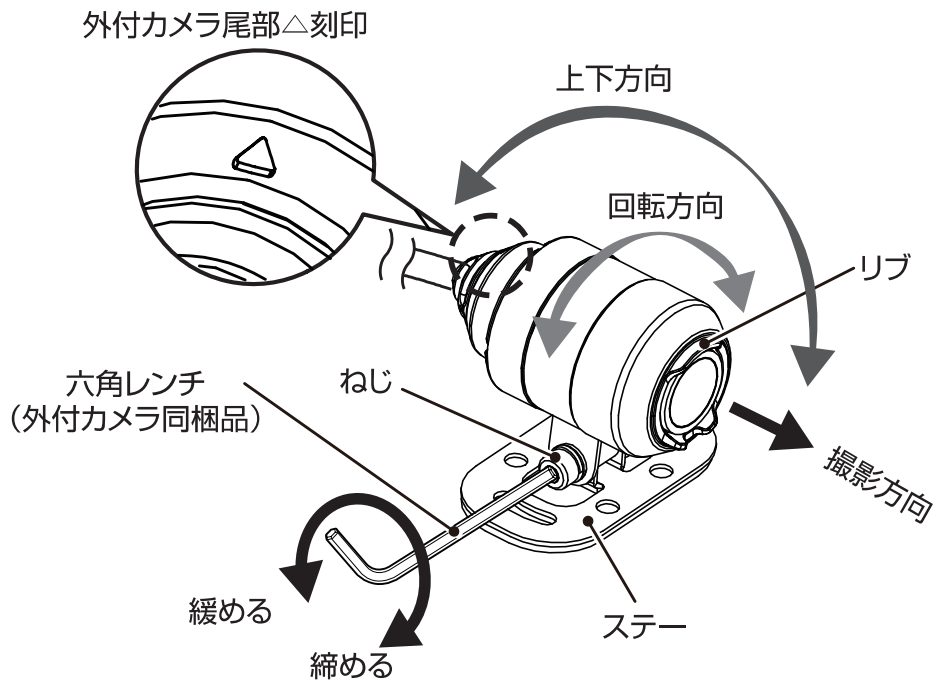
外付カメラ視野角の調整

外付カメラ(別売)の撮影範囲を調整します。

1. 外付カメラの同梱品の六角レンチを使用して、ステーのねじを緩めます。
2. 外付カメラが撮影方向に向くように外付カメラの上下方向の角度を調整します。
3. 外付カメラ尾部の△の刻印、またはレンズ外周のリブ(切り欠きがない側)が上面になるように回転方向の位置を調整します。
4. 調整が完了したら、ステーのねじを締めて固定します。

お知らせ

スマートフォンアプリと連携させ、リアルタイム画面をご覧になりながら調整をすることもできます。
スマートフォンアプリの入手、操作方法はご購入のサービス会社にお問い合わせください。



モビリティカメラの機能

■ 機能設定について

スマートフォンアプリの通信機能、またmicroSDカードを使用して本機の機能を設定することができます。設定方法、設定できる項目はご購入のサービス会社の仕様によって異なります。詳細はご購入のサービス会社にお問い合わせください。

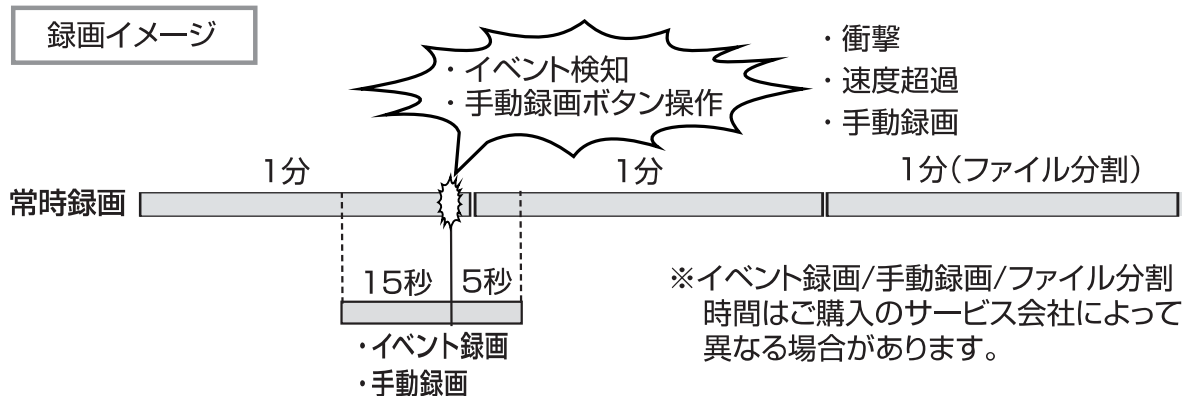
お知らせ

スマートフォンアプリはご購入のサービス会社の仕様によって異なります。
スマートフォンアプリの入手・インストール・操作方法はご購入のサービス会社にお問い合わせください。

■ 録画機能について

本機はmicroSDカードに動画を保存します。

本機を使用する前に、必ずmicroSDカードを、本体ユニットのmicroSDカードスロットに挿入してください。詳細については(➡P.14)を参照してください。



《 常時録画 》

本機の電源がオンになると、常時録画を開始します。

- ・ DC/DCコンバータの充電が十分な時、10秒以内に録画を開始します。
- ・ 常時録画の最大録画時間は、使用するmicroSDカードの容量によります。
- ・ 常時録画は1分ごとにファイルを分割して保存します(初期設定)。
- ・ 常時録画ではmicroSDカードの録画領域がなくなると、古いファイルから上書きして録画を続けます。

録画ファイルの保存場所

microSDカード内の「NORMAL」フォルダに保存されます。(➡ P.43)

《 イベント録画 》

運転中に車両に大きな衝撃が加わるなど異常を検知した場合は、イベント録画を開始します。

- ・ イベント録画は常時録画とは別ファイルとして保存され、常時録画はイベント録画中でも継続されます。
- ・ イベント録画の録画時間は、検知前の15秒間と検知後の5秒間の合計20秒間です。
- ・ イベント録画中に更にイベントを検知しても、イベント録画時間の延長はしません。
- ・ イベント録画ではmicroSDカードの録画領域がなくなると、古いファイルから上書きして録画を続けます。

イベント録画ファイルの保存場所

microSDカード内の「EVENT」フォルダ内で、各イベントごとのフォルダに保存されます。(➡ P.43)

モビリティカメラの機能

《 手動録画 》

常時録画中にコントロールユニットのボタンを押すと手動録画することができます。

- 手動録画中も常時録画は継続しています。
- 手動録画の記録時間は、ボタンを押した15秒前からと5秒後までの合計20秒間です。
- 手動録画中に更にボタンを押しても、手動録画時間の延長はしません。
- 手動録画中にイベント検知をした場合、イベント録画が優先され、手動録画は中止されます。
- 手動録画ではmicroSDカードの録画領域がなくなると、古いファイルから上書きして録画を続けます。

手動録画ファイルの保存場所

microSDカード内の「EVENT」フォルダ内の「MANUAL」フォルダに保存されます。(➡ P.43)

お知らせ

イベント録画/手動録画の録画時間はご購入のサービス会社により異なる場合があります。

■ 録音機能について

録画時の録音機能のオン/オフを設定できます。

※ご購入のサービス会社の仕様により設定できない場合があります。詳細はサービス会社にお問い合わせください。

■ ホットスタートについて

DC/DCコンバータの内蔵バッテリーが充電されている場合、車両のエンジンをオフにしても本機はスリープモードでの待機状態となり、車両のエンジンをオンにした時、10秒以内で録画開始することができます。

※内蔵バッテリーが満充電の場合、最大15分間ホットスタートが可能です。

■ ファクトリーリセットについて

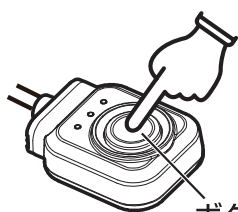
本機の設定を工場出荷状態に戻します。

<ファクトリーリセットの実行手順>

- ① 本体ユニットの再起動ボタンと、コントロールユニットのボタンを同時に長押しします。約7秒押し続けるとファクトリーリセットを実行可能な状態となり、ステータスLED1が4秒間薄紫色に点灯します。
- ② ステータスLED1が点灯している間に、長押ししていたボタンを離すと、ファクトリーリセットが開始されます。ファクトリーリセットが開始されると、ステータスLED1が約5秒間0.5秒間隔で薄紫色に点滅します。
- ③ ファクトリーリセットが完了すると、本機は自動的に再起動し、常時録画を開始します。

※microSDカードに保存された録画データはリセットされません。

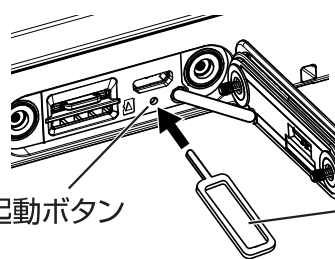
コントロールユニット



ボタン

同時に長押し

本体ユニット



再起動ボタン

再起動ボタンは穴の内部にあります。専用工具は同梱されておきませんので、お客様でSIM抜きピンなどの工具をご用意ください。

ファームウェアのアップデート

本機のファームウェアは性能向上や不具合修正のためにアップデート(更新)することがあります。常に最新のファームウェアをご使用されることをおすすめします。ファームウェアの更新方法には、お客様による手動更新と、LTE通信による自動更新があります。

■手動更新

本機に更新用ファームウェアを書き込んだmicroSDを挿入してファームウェアを更新します。

- ① 最新のファームウェアを入手し、microSDカードにコピーする。

お知らせ

最新のファームウェアの入手方法およびmicroSDカードへの書き込み方法については、ご購入のサービス会社にお問合せください。

- ② ファームウェアをコピーしたmicroSDカードを本体ユニットに挿入し、電源をオンにする。
- ③ 無線LANモードに切り替える。
コントロールユニットのボタンを長押し(3~7秒)し、無線LANモードに切り替えてください。本機は無線LANモードへの遷移時にファームウェアの確認をし、microSDカードに新しいバージョンのファームウェアが存在する場合にはファームウェア更新を開始します。(ファームウェア更新中はコントロールユニットのステータスLED1が薄紫色に点灯します)
- ④ ファームウェア更新が完了すると自動的に再起動し、システムチェックを開始します。(ステータスLED1が0.5秒間隔で橙色/青色に点滅します)
- ⑤ システムチェックが正常に終了すると常時録画を開始します。(ステータスLED1が青色に点灯します)

■自動更新

LTE通信で更新用ファームウェアを自動的にダウンロードし、自動で更新します。お客さまに操作をしていただく必要はありませんが、更新完了までに数分間かかります。

- ① 更新用ファームウェアをLTE通信で自動的にダウンロードし、ダウンロード後の最初に本機が起動された時に自動的に更新を開始します。(ファームウェア更新中はコントロールユニットのステータスLED1が薄紫色に点灯します)
- ② 更新が完了すると自動的に再起動し、システムチェックを開始します。(ステータスLED1が0.5秒間隔で橙色/青色に点滅します)
- ③ システムチェックが正常に完了すると常時録画を開始します。(ステータスLED1が青色に点灯します)



- ファームウェアとは本体内に組込まれたソフトウェアで、本機の動作制御をしています。性能向上、不具合修正のためにアップデートすることがあります。
- ファームウェアの更新中(コントロールユニットのステータスLEDが薄紫色に点灯中)には絶対に電源をオフしたり、microSDカードを抜いたりしないでください。ファームウェア更新中に電源がオフになった場合は、次回の電源オン時に再度自動更新が実行されます。
- ファームウェア更新中は本機の録画機能、ボタン操作など全ての機能は動作しません。

ビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う

「STZ VIEWER for FLEET」は、本機で録画した映像をパソコンに表示するため専用PCソフトです。お使いのパソコンにインストールしてご使用ください。

「STZ VIEWER for FLEET」の動作環境

	Windows 版	Mac 版
対応 OS	Windows 8.1/8.1Pro (32Bit/64Bit) Windows 10 (32Bit/64Bit) Windows 11 (64Bit)	macOS High Sierra(10.13) macOS Mojave (10.14) macOS Catalina (10.15)
CPU	Intel Core i3 2GHz 以上	Core i3 2GHz 以上
メモリ	2GB 以上 (64BitOSは4GB以上)	4GB 以上
ディスプレイ	1280x800 以上	
HDD	500MB以上の空き領域	
音声	Windows で使用可能なPCM サウンド再生機能	Macで使用可能なサウンド再 生機能
インターネット環境	インターネット接続環境 (地図データ取得、および復号化鍵取得をする場合)	

「STZ VIEWER for FLEET」のインストーラファイルを手にする

お知らせ

最新の「STZ VIEWER for FLEET」の入手方法については、ご購入のサービス会社にお問合せください。

「STZ VIEWER for FLEET」をインストールする

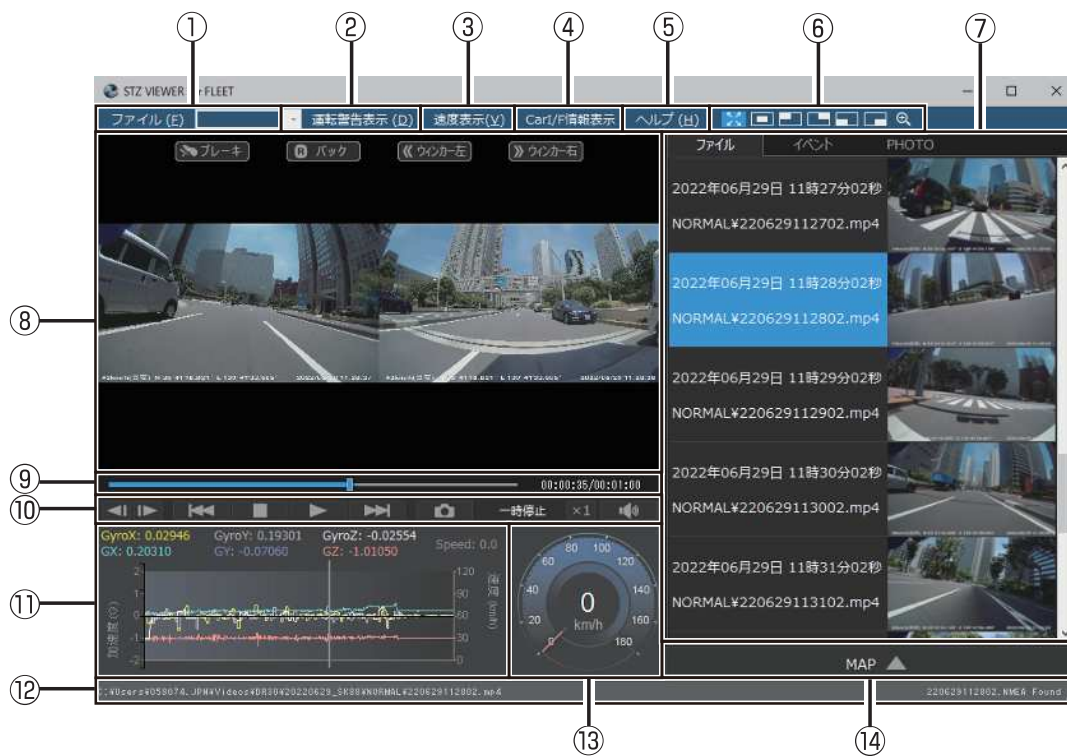
1. 入手したインストーラファイルをインストールするパソコンの任意の場所にコピーする。
2. インストーラファイルを実行する
パソコンにコピーしたインストーラファイルを実行し、画面上の指示に従ってアプリケーションをインストールする。
※インストール後はインストーラファイルは不要です。

「STZ VIEWER for FLEET」を起動する

パソコンのスタートメニュー、またはデスクトップのショートカットから「STZ VIEWER for FLEET」を起動する

ビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う

STZ VIEWER for FLEET 画面



※本書ではWindows 10の画面を例として説明しています。
OS、バージョンの違いにより、実際の画面と異なる場合があります。

①ファイル操作

ファイル選択や、microSD カードのファイルをパソコンにバックアップするなど、ファイルの操作を行います。

フォルダを選択する(S)	microSDカードのドライブや、パソコンにバックアップしたフォルダを選択します。
kmz/kml にエクスポート (E)	Google Earth地図サービスで利用可能な走行情報ファイル(kml/kmz)を出力します。
バックアップ (B)	必要に応じてmicroSDカードのファイルをパソコンのハードディスクなどにバックアップします。
終了(X)	アプリケーションを終了します。

 (ドライブ一覧)

microSDカードに保存されているファイルを再生するときに使用します。

②運転警告表示

運転警告表示のON/OFF を設定します。ON にすると再生バーにアラートのアイコンを表示します。

③速度表示

スピードメーターと速度表示のON/OFFを設定します。

ON にするとスピードメーターとGセンサーチャートに車の速度を波形で表示します。

④CarI/F情報表示

CarI/F情報使用のON/OFFを設定します。

※本機では非対応のため、OFFにご使用ください。




⑤ヘルプ

ビューアソフトのバージョン、ソフトウェアライセンス情報を表示します。

ビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う

⑥映像再生画面選択

再生している映像を拡大表示します。

	拡大表示したときに、押すと通常画面に戻ります。
	画面中央 左上 右上 左下 右下 を拡大表示します。
	表示される枠を動かして、任意の場所を最大5倍で拡大表示します。 [リセット]を押すとなど倍表示(1倍)になります。

⑦ファイルリスト

選択タブで選んだファイルとサムネイルを一覧で表示します。

microSDカードが暗号化されている場合は、カギマークのアイコンが表示されます。

⑧映像画面


選択したファイルの映像を表示します。再生バーを操作すると、任意の場所に移動できます。

外付カメラ(リア)を接続して撮影したファイルは、外付カメラ(フロント)と外付カメラ(リア)の映像を2分割で表示します。

一方の映像画面をダブルクリックするとその映像のみの全画面表示となり、クリックすると2分割の画面に戻ります。

⑨再生バー/再生時間/総再生時間/運転警告表示

運転警告表示アイコン (例)

	<ul style="list-style-type: none"> ・衝撃・速度超過 ・手動録画
---	---

※イベントの中には、ビューアソフトでアイコンが表示されないイベントがあります。

※検出されるイベントの種類は、ご購入のサービス会社により異なる場合があります。

⑩操作ボタン

映像再生、停止などの操作ボタンです。

	前のコマを表示します。										
	後のコマを表示します。										
	再生中のファイルの先頭に戻ります。										
	次のファイルを再生します。										
	再生を開始します										
	再生中に押すと一時停止します										
	再生を停止します。										
	押したところで、映像を静止画として保存します。										
<table border="1"> <tr> <td>再生</td> <td>再生状態などの動作を表示します。</td> </tr> <tr> <td>停止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一時停止</td> <td></td> </tr> </table>	再生	再生状態などの動作を表示します。	停止		一時停止		<table border="1"> <tr> <td>再生</td> <td>停止</td> <td>一時停止</td> <td>未読み込み</td> </tr> </table>	再生	停止	一時停止	未読み込み
再生	再生状態などの動作を表示します。										
停止											
一時停止											
再生	停止	一時停止	未読み込み								
	再生速度を変更します。 <table border="1"> <tr> <td>x½</td> <td>x1</td> <td>x2</td> <td>x4</td> <td>x8</td> <td>x16</td> </tr> </table>	x½	x1	x2	x4	x8	x16				
x½	x1	x2	x4	x8	x16						
	音量を調整します。 [0~100]										

⑪Gセンサーチャート

車の前後(GX)、左右(GY)、上下(GZ)方向の動きの加速度と前後(Gyro X)、左右(Gyro Y)、上下(Gyro Z)方向のジャイロ角速度と車の速度(Speed)を波形と数値で表示します。

⑫再生中のファイルのパス

⑬スピードメーター

車の速度を表示します。

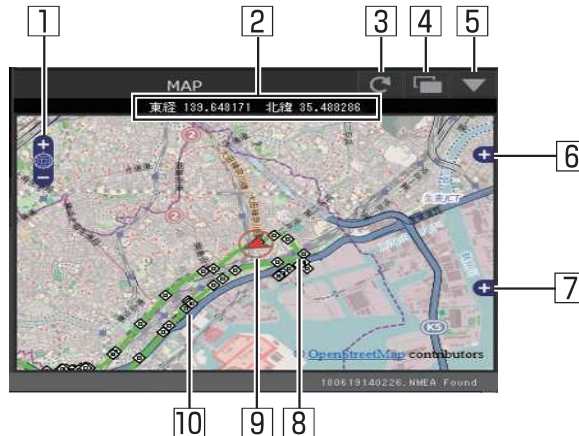
お知らせ

車の速度は実際の速度とは異なります。目安としてください。

ビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う

⑭ 地図表示ボタン

ファイルリストをクリックすると、選択した動画ファイルの位置情報が地図上に表示されます。地図が表示されていないときは **MAP ▲** をクリックしてください。ネットワーク状態により、地図が表示されない場合があります。ネットワークが接続されていることを確認の上、⑬の地図の再読み込みを行ってください。



- ① 地図を拡大/ 縮小します。
- ② 緯度・経度を表示します。
- ③ 地図を再読み込みします。
- ④ 地図を別ウィンドウで開きます。
- ⑤ 地図を非表示にします。 **MAP ▲** をクリックすると地図を表示します。
- ⑥ 地図上に表示される経路やアイコンの表示・非表示を選択できます。
- ⑦ 広域の地図で表示します。
- ⑧ 経路

2日以上経路を表示しているときは、日ごとに色を変えて表示します。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
青	赤	緑	白	桃色	水色	黄色

- ⑨ 選択中のファイルの自転車位置を表示します。

⑩ 各ファイルの先頭位置

アイコンにマウスカーソルを合わせるとファイルの先頭位置の映像が表示されます。クリックすると該当ファイルを再生します。

お知らせ

- microSD カードの録画容量がなくなると古いファイルは上書きされて消去されます。消去された部分については地図上に表示されません。
- 地図上の自転車位置は本機に内蔵している測位衛星アンテナを使用しています。ビル街、トンネル、高架下など測位衛星信号の受信環境が悪い場所の走行では、自転車位置が正しく表示されないことや実際の走行軌跡がずれることがあります。

ビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う

ファイルを再生する


1. microSDカードを本機から取り外し、付属のmicroSDカード変換アダプタに挿入してから、カードリーダー(市販品)を使用してパソコンに接続する
2. STZ VIEWER for FLEET を起動する
3. ドライブ一覧からmicroSDカードのドライブを選択する



※パソコンに保存しているファイルを再生する場合は、ファイル(F)の<フォルダを選択する(S)>で保存先のフォルダを選択してください。

お知らせ

ファイルが暗号化されている場合、復号化する必要があります。復号化の手順はご購入のサービス会社にお問い合わせください。


4. [ファイル]、[イベント]、[PHOTO] タブから、再生したいファイルを選択して[]を押す

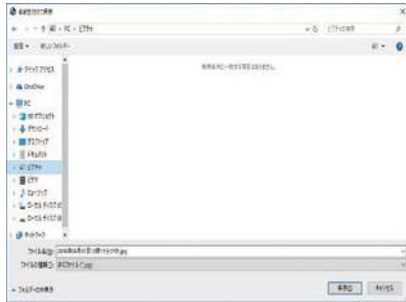
ファイル	イベント	PHOTO
全ファイルを表示します。	イベント記録のファイルを表示します。	静止画記録のファイルを表示します。

映像から静止画を出力する

再生している映像から任意の場所の映像を取り込んで静止画として出力します。

ビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う

1. 映像を取り込みたいファイルを選択し再生する
2. 取り込みたいところで [] ボタンを押す
3. 保存先のフォルダを選択しファイル名を付ける



4. [保存] ボタンを押す

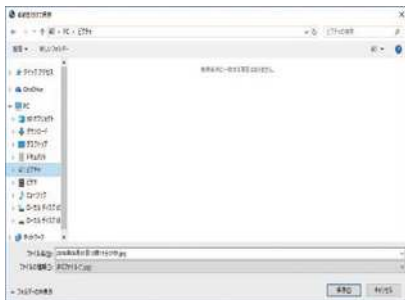
お知らせ

映像画面に表示している状態の静止画になります。

走行情報を出力する

Google Earth 地図サービスで利用可能な走行情報ファイル(kml/kmz)を出力します。

1. ファイル(F)から <kmz/kml にエクスポート(E)> を選択する
2. バックアップ先のフォルダを選択し、ファイルの種類「KML/KMZ」を選択してファイル名を付ける



3. [保存] ボタンを押す

お知らせ

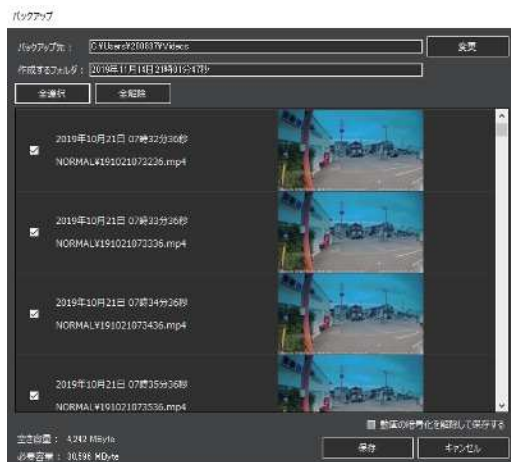
使用方法は、Google Earth 地図サービスのヘルプをご覧ください。

ファイルをバックアップする

必要に応じてmicroSD カードのファイルをパソコンのハードディスクなどに保管します。

ビューアソフト「STZ VIEWER for FLEET」を使う

1. ファイル(F)から<バックアップ(B)>を選択する
2. バックアップ先のフォルダを選択する
3. 保存したいファイルにチェックマークをつけて保管するファイルを選択する
4. [保存] ボタンを押す



お知らせ

暗号化されているファイルをバックアップする場合は「動画の暗号化を解除して保存する」にチェックを入れて保存すると通常のプレイヤーでも再生をすることができます。



故障かな?と思ったら

次の一覧から該当する症状を見つけて対処してください。解決方法が見つからないときは、ご購入の販売店までお問い合わせください。

症状	原因 / 対処方法
車両ACCをONしても、LEDインジケータが点灯しない。	<ul style="list-style-type: none">●ヒューズが切れていませんか? ⇒ヒューズ切れの原因を取り除き、ヒューズを交換してください。(ヒューズは必ず指定の容量のものをご使用ください)●電源ケーブル、コントロールユニットケーブルの中継コネクタが外れていませんか? ⇒中継コネクタの接続を確認してください。
ステータスLEDがmicroSDカードの異常を知らせる表示をする。(⇒P.27参照)	<ul style="list-style-type: none">●microSDカードは正しく挿入されていますか? ⇒正しく挿入しても変わらない場合、microSDカードのフォーマットを実行、または新しいmicroSDカードに交換してください。(⇒P.9参照)
ステータスLEDが外付カメラ(フロント)の異常を知らせる表示をする。(⇒P.27参照)	<ul style="list-style-type: none">●フロント側カメラケーブルの中継コネクタが外れていませんか? ⇒中継コネクタの接続を確認してください。(⇒P.24参照)
ステータスLEDが外付カメラ(リア)の異常を知らせる表示をする。(⇒P.27参照)	<ul style="list-style-type: none">●リア側カメラケーブルの中継コネクタが外れていませんか? ⇒中継コネクタの接続を確認してください。(⇒P.24参照)
ステータスLEDがGPSの異常を知らせる表示をする。(⇒P.27参照)	<ul style="list-style-type: none">●GPSケーブルの中継コネクタが外れていませんか? ⇒中継コネクタの接続を確認してください。(⇒P.24参照)
ステータスLEDが本体ユニットが高温になっていることを知らせる表示をする。(⇒P.27参照)	<ul style="list-style-type: none">●本体ユニットが高温になっています。発熱を抑えるために手振れ補正をOFFし、フレームレートを一時的に落として録画を続けます。それでも温度が下がらない場合は、録画を停止します。
使用中に本体ユニットや外付カメラが発熱する。	<ul style="list-style-type: none">●触れないほど熱いか? ⇒使用中は発熱します。触れないほど発熱する場合は直ちに使用を止め、ご購入の販売店にお問い合わせください。
手動録画時間が短い。	<ul style="list-style-type: none">●手動録画時間はボタン押した15秒前から5秒後までの20秒間です。常時録画開始直後にボタンを押した場合、録画時間が短くなる場合があります(⇒P.31参照)。※手動録画の時間はご購入のサービス会社により異なる場合があります。
録画映像の表示時刻と実際の時刻がずれている。	<ul style="list-style-type: none">●GPSアンテナの上方向が金属または金属でコーティングされたもので覆われていませんか? ⇒覆っているものを取り外します。またはGPSアンテナを覆うものがない場所に設置してください。解決しない場合は、専用スマートフォンアプリを使用して、時刻の同期を行ってください。

故障かな?と思ったら

症状	原因 / 対処方法
録画された映像が鮮明でない。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 外付カメラのレンズは汚れていませんか? ⇒レンズクリーナーか、少し水を含ませた柔らかい布でレンズを拭いてください。 ◦ 納入時の保護フィルム（青）が付いていませんか? ⇒保護フィルムを剥がしてください（⇒P.20参照）。
フロントとリアの外付カメラの映像が入れ替わって録画される。	<ul style="list-style-type: none"> ● カメラケーブルと本体ユニットの接続先が合っていますか?（⇒P.13参照） ⇒カメラケーブルの中継コネクタを取り外し、正しい接続先に接続し直してください。
Gセンサーの反応と車両の方向（上下、前後、左右）が合わない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体ユニットの向き（X、Y、Z）は、車両の前後、左右、上下に合わせて取り付けられていますか?（⇒P.16参照） ⇒できるだけ本体ユニットと車両の向きを合わせて取り付けてください。 ※衝撃検知感度には影響しません。
衝撃録画が頻繁に作動する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本体ユニットが車両にしっかり固定されていますか? ⇒本体ユニットが動かないように固定してください。
GPSの位置情報が取得できない。または位置がずれる。	<ul style="list-style-type: none"> ● GPSアンテナの上方向が金属または金属でコーティングされたもので覆われていませんか? ⇒覆っているものを取り外します。またはGPSアンテナを覆うものがない場所に設置してください。 ● トンネル内や山間部、ビル街、高架下などを走行していませんか? ⇒周囲の環境によってGPSの電波を受信しにくい場所があります。場所を変えて位置情報が正しく取得できるか確認してください。
スマートフォンと本機が無線LAN接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 無線LANモードに切り替えましたか? ⇒コントロールユニットのボタンを長押し(3~7秒)押しして無線LANモードに切り替えてください。 ● 接続先のパスワードを正しく入力しましたか? ⇒正しいパスワードを入力してください。
無線LAN接続したが、アプリと本機が接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● すでに別のスマートフォンが接続されていませんか? ⇒複数台のスマートフォンを同時に接続できません。別のスマートフォンの接続を解除してください。 ※必要に応じてご購入のサービス会社にお問い合わせください。

付録

測位衛星(GPS、GLONASS(グロナス)、みちびき)の受信について

- 本機の電源がオンになると測位を始めます。
衛星の測位状況によっては、測位が完了するまで、5分程度かかる場合があります。
- 衛星信号は、固体物質(ガラスを除く)を通過することができません。トンネルや建物の中にいる場合、測位は使用できません。信号の受信は、悪天候や密集した頭上の障害物(例えば、樹木、トンネル、高架橋または高層ビル)などの状況の影響を受ける可能性があります。衛星信号が正しく受信できないときは速度や位置情報などが正しく表示されません。
- 測位データは、参考値です。

LTE通信について

- 本機はLTE方式の通信に対応しています。
- 本機は無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かない場所、屋外でも電波の弱い場所、LTEサービスエリア外ではサーバーとの通信ができない場合があります。

Bluetoothについて

- 本機はBluetoothに対応しています。
- 本機はBluetooth対応のスマートフォン、パソコンなどとペアリングすることで無線接続することができます。ただし接続する機器の特性や仕様によっては通信できない場合があります。

商標、ソフトウェアに関する重要なお知らせ

- microSDHC、microSDXCとそのロゴマークはSD-3C LLCの商標です。
- Google Earth は、Google LLCの商標または登録商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac、OS Xは米国およびその他の国で登録された米国Apple, Inc.の商標です。
- Intel Coreは、Intel Corporationの登録商標または商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi CERTIFIED、Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- Bluetooth®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, Inc.の登録商標で、株式会社JVCケンウッドはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。
- 本製品は AVC Patent Portfolio License に基づき、以下の用途にのみライセンスされています。
 - 1) 消費者が個人的かつ非営利目的でMPEG-4 AVC 規格に準拠する動画(以下、AVC Video)を記録する場合
 - 2) AVC Video(消費者が個人的に非営利目的で記録したもの、またはMPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダが記録したものを)を再生する場合詳細については、MPEG LA, LLC. のホームページをご参照ください。
<http://www.mpegla.com/>

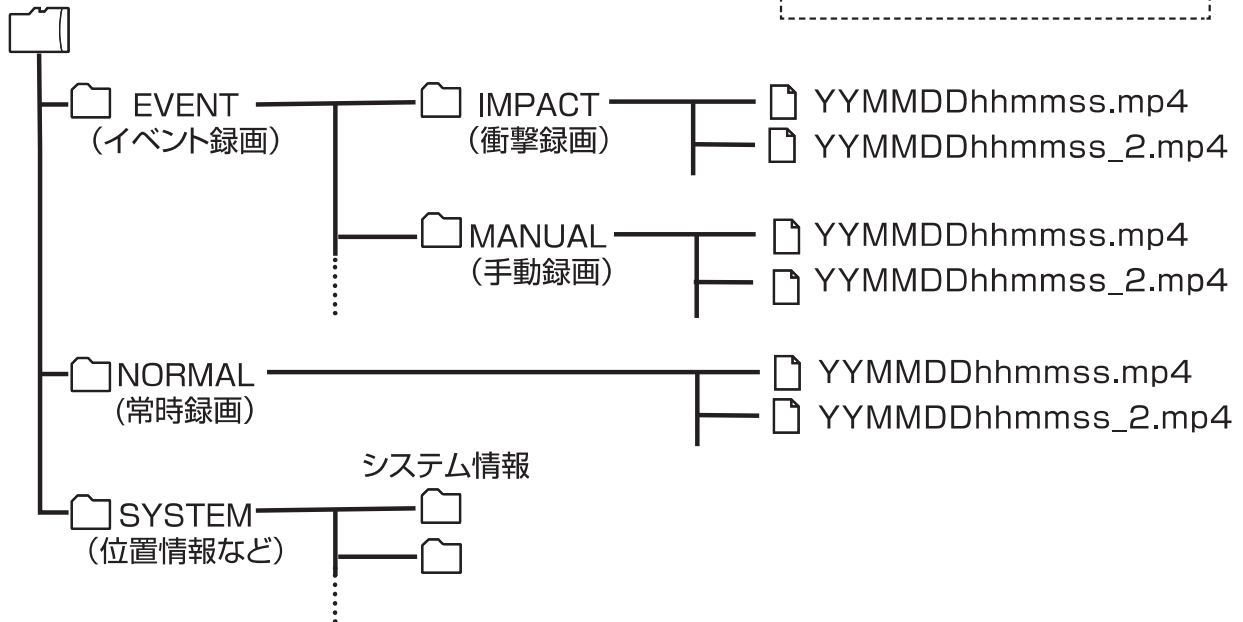
フォルダ / ファイル構成

microSDカードに録画または記録したファイルは、項目毎のフォルダに保存されます。ファイル名は録画または記録された年月日と時間で自動的に付けられます。



- ・ microSDカード内にあるファイルをパソコンなどで変更または削除しないでください。本機やパソコンのアプリケーションで正しくファイルが再生できなくなることがあります。
- ・ 正しい時刻が取得できていないときは、録画または記録された年月日と時間とは異なるファイル名になり、ファイル名の最後に "_UNKNOWN" が付きます。

microSDカード
ルートフォルダ



ファイル名表記について

- ・ ドライブレコーダーの映像ファイル
YYMMDDhhmmss.mp4
年 月 日 時 分 秒

- ・ 外付カメラ(リア)映像はファイル名の末尾に「_2」が付きます。



- ・ 上記以外のフォルダが表示される場合がありますが、動画、静止画、位置情報などには関係ありません。

主な仕様

・本体ユニット

動作温度範囲	-20 ~ +60°C (保管温度範囲:-30 ~ +85°C)		
防水/防塵性	IP66 / IP67 相当		
外形寸法 (WxDxH)	約104mm x約79mm x 約26.5mm (突起部、ケーブル部含まず)		
質量(重さ)	STZ-DR30MBJP: 約292 g、STZ-DR30MCJP: 約 304 g (microSDカード、nano SIMカード含まず、ケーブル含む)		
動作電源電圧	DC5.4V (5~5.8V) ※DC/DCコンバータから供給		
消費電流(最大)	3A MAX		
加速度センサー	内蔵(-8.0G ~ +8.0G)		
ジャイロセンサー	内蔵		
音声マイク	内蔵		
無線通信	LTE	FDD: B1, B19 Cat.4	
	無線LAN	IEEE802.11 b/g/n, 2.4GHz	
	Bluetooth	BR/EDR/BLE, Ver4.2	
外部 I/F	micro USB B Type 端子 CAN端子(STZ-DR30MCJPのみ)		
対応SIMカード	nanoSIM		
対応記録メディア	microSDXC/SDHC カード 32GB ~ 128GB 対応、Class 10 (CLASS 10)推奨		
記録フォーマット	動画	静止画	音声
	MP4 H.264	JPEG	MP4 AAC(モノラル) 128kbps

・DC/DCコンバータ

動作温度範囲	-20 ~ +60°C (保管温度:-30 ~ +85°C)		
防水/防塵性	IP66 / IP67 相当		
外形寸法 (WxDxH)	約120mm x 約54mm x 約28mm (突起部、ケーブル部含まず)		
質量(重さ)	約 192 g (ケーブル含む)		
電源電圧	DC12V / 24V		
出力電圧	DC5.4V (5~5.8V)		
消費電流(最大)	3A MAX		
表示機能	LED :1個		

主な仕様

・コントロールユニット

動作温度範囲	-20 ~ +60°C (保管温度:-30 ~ +85°C)
防水/防塵性	IP66 / IP67 相当
外形寸法 (WxDxH)	約30mm x 約38mm x 約12mm (両面テープ含む、突起部、ケーブル部含まず)
質量(重さ)	約 53 g (ケーブル含む)
操作部	ボタン: 1個
表示機能	LED: 3個

・GPSアンテナ

動作温度範囲	-20 ~ +60°C (保管温度:-30 ~ +85°C)
防水/防塵性	IP66 / IP67 相当
外形寸法 (WxDxH)	約37.5mm x 約34.5mm x 約12.5mm (両面テープ含む、突起部、ケーブル部含まず)
質量(重さ)	約 52 g (ケーブル含む)
受信測位衛星	GPS、GLONASS、QZSS(みちびき)

・外付カメラ(別売:STZ-DR30CU)

動作温度範囲	-20 ~ +60°C (保管温度:-30 ~ +85°C)
防水/防塵性	IP66 / IP67 相当
外形寸法 (ΦxDxH/W)	約Φ26mm x 約46mm x 約36.4mm / 約44mm(ブラケット幅) (突起部、ケーブル含まず、H/Wはステー寸法含む)
質量(重さ)	約 85 g (ステー、ケーブル含む)
映像素子	1/2.8"カラー CMOS
有効画素数	約200万画素
画角	水平:154°、垂直:84°、対角:182°
F値	F2.2
フレームレート	27 fps (最大)
HDR	有り

- ・仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがあります。
- ・本書に描かれているイラストは、わかりやすくするために誇張・省略があります。

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

本製品のソフトウェアライセンスについて

本製品に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれにJVCケンウッドまたは第三者の著作権が存在します。

本製品は、JVCケンウッドおよび第三者が規定したソフトウェア使用許諾契約に基づくソフトウェアコンポーネント(以下、「許諾ソフトウェア」)を使用しております。

許諾ソフトウェアの中には、フリーソフトウェアに該当するものがあり、GNU General Public LicenseまたはLesser General Public License(以下、「GPL/LGPL」)のライセンスが適用される結果、実行可能な形式のソフトウェアコンポーネントを配布する際に、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にすることが求められています。当該ソースコードの頒布に関しては、以下のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス

<https://www.kenwood.com/gpl/j.html>

なお、ソースコードの内容などについてのご質問はお答えしかねますので、予めご了承ください。

「GPL/LGPL」の適用を受けない許諾ソフトウェアにつきましては、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

「GPL/LGPL」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は、明示かつ黙示であるかを問わず一切ありません。

適用法令の定め、または書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、または使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。

当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただかなければならない事項などの詳細は、各「GPL/LGPL」をお読みください。

本製品に組み込まれた「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントをお客さま自身でご利用頂く場合は、対応するライセンスをよく読んでから、ご利用くださるようお願い致します。なお、各ライセンスはJVCケンウッド以外の第三者による規定のため、原文(英文)を、別紙「About software license」に記載しています。

アフターサービス

修理に関するご相談は

修理などアフターサービスについては、ご購入のサービス会社にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」(→ P.40)を参照してお調べいただき、それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、ご購入のサービス会社にお問い合わせください。

お客さまが登録、設定したメモリー内容がすべて消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

商品に関するお問い合わせ

商品に関するお問い合わせは、ご購入のサービス会社にまでご連絡ください。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

製造元：株式会社JVCケンウッド